

第8章 知的障害

第1節 教科別の指導 国語 中学部2年〇〇グループ

1 年間指導計画

学期・月	単元・題材名	授業目標	指導内容・手立て	評価	時数	
1	「聞いてみよう答えてみよう」	<ul style="list-style-type: none"> 相手に分かるように質問したり、質問を理解して回答したりできる。【思・判・表】 丁寧な言葉遣いができる。【知・技】 	<ul style="list-style-type: none"> 複数回行うことで質問、返答の基本に慣れる。 正しい言葉遣いを伝える。 		/4	
		「硬筆」	<ul style="list-style-type: none"> 点画相互の接し方や交わり方に注意して文字を書くことができる。【知・技】 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒に応じた手本、原稿用紙を用意し視写の練習を進める。 		/3
		「運動会の記録を作ろう」	<ul style="list-style-type: none"> 出来事を思い浮かべ、伝えたいことを決めることができる。【思・判・表】 構成を考えて、文章を作ることができる。【知・技】 	<ul style="list-style-type: none"> 写真を用い振り返ることで、活動へ向かう気持ち等を表現できるようにする。 ワークシートを使い、考えた事柄を5W1Hの構成で整理できる。 		/6
2	書字、読字、語彙の拡充等は通年で指導する	「詩や俳句を読んでもみよう」	<ul style="list-style-type: none"> 言葉の響きやリズムを感じることができる。【知・技】 内容に対する感想を持つことができる。【思・判・表】 	<ul style="list-style-type: none"> 歌詞等なじみのある作品から始め、詩歌に触れることで、日本語の表現やリズムを感じることができる。 生徒の感じたことを大切に、必要に応じて代弁する。 		/4
		「文化祭を見に来てもらおう」	<ul style="list-style-type: none"> 相手に伝えるために必要な情報が何か考えることができる。【思・判・表】 相手に伝わるよう簡単な構成を考えることができる。【思・判・表】 手紙（招待状）の定型を理解する。【知・技】 	<ul style="list-style-type: none"> 招待したい相手、見てもらいたいことなどの、伝えたい内容をまとめていく。 必要な情報の部分と気持ちを伝える部分に分け招待状の本文を作成する。 ワークシートを使いながら、定型の文章を書くことができる。 		/7
		「毛筆」	<ul style="list-style-type: none"> 姿勢や筆の持ち方を正しくし、文字の形に注意して文字を書くことができる。【知・技】 	<ul style="list-style-type: none"> 姿勢や筆の持ち方、文字の形、筆順を適宜伝えながら練習を進める。 		/3
3	「みんなで読もう」	「クイズに挑戦！～するもの何？」	<ul style="list-style-type: none"> 対象を思い浮かべ出題したり、相手の話から分かったことを伝えたりすることができる。【思・判・表】 事物の特徴を表す形容詞を使うことができる。【知・技】 	<ul style="list-style-type: none"> 問題や答えを考える中で、事物の特徴や役割などを言葉で表現することになじむことができる。 色々な形容詞があることに触れ、語彙を増やすことができる。 		/4
		「みんなで読もう」	<ul style="list-style-type: none"> 相手に伝わるように、発声や声の大きさに気を付けて読むことができる。【思・判・表】 長音・拗音・促音・撥音を正しく読むことができる。【知・技】 	<ul style="list-style-type: none"> 簡単な詩の群読を通して、適切な発音、声の大きさ、速さを伝える。 特殊音節について文字と音が一致できるよう、抜き出して指導する。 		/4
授業評価・改善					総時数 /35	
年間を通じて、言葉の持つ良さに気付き、言葉で考えたり伝えたりしようとする態度を育てる【学・人】						

2 本指導案

中学部2年〇グループ 教科別の指導「国語」学習指導案

日 時 令和〇〇年〇〇月〇〇日（〇曜日）
 第〇時 〇〇：〇〇～〇〇：〇〇
 場 所 〇〇〇〇
 指導者 〇〇 〇〇

1 題材名「文化祭を見に来てもらおう」

2 題材設定の理由

(1) 生徒観

本グループは中学2年生の男子4名で構成されている。主障害は知的障害であるが、自閉症を併せ持つ者2名、ダウン症を併せ持つ者2名である。全員に発語があり学校生活の中では言葉による指示理解があり、二語文、三語文程度で教員との簡単な日常会話も成立するが、発語が不明瞭なため通じ難いこともある。学習や行事に対しては意欲的な生徒たちであるが、自分の気持ちを伝えたり、物事を依頼したりすることには苦手意識が見られ、一方的な他者への関わりが多くなりがちである。自他の区別を意識させながら、適切な人間関係を築いていくこと、必要なことを相手に伝えることなど、今後の社会的な広がりに向けて学習を重ねていくことが必要な生徒たちである。

(2) 題材観

文化祭は生徒たちにとって楽しみな行事であるとともに、自身の学習の成果を多くの人に見てもらえる機会でもある。本題材では、家族を基本として身近な人に文化祭を見に来てもらうために招待状を書くことを通して、人に伝えるための情報の整理、構成【中学部1段階〔思・判・表〕B-ア・イ・ウ】について学ばせていきたい。

これまで、生徒たちは様々な行事の事前学習で情報を受け取る側として、教員の話聞き取りことや、しおり等を読むことを学習してきたが、今回は、情報を発信する側として、相手の立場に立ち、伝えなければいけない事柄は何かを考え、見つけること【中学部1段階〔思・判・表〕B-ア】を学習課題としたい。その過程で「日時」「場所」「内容」といった客観的な情報を正確に伝えることに加えて、相手が行ってみたいと思うような内容や、ぜひ来てほしいという自分の気持ちを言葉で表すことの大切さにも気付くことができるようにしたい。【教科の目標（2）】本題材では招待する人を具体的にイメージできるように、家族を中心に決めることとした。文化祭に向けて自分が行っている活動や、その時々気持ちを、人に伝えるという観点で客観視することは、今後の社会性の広がりにつながる大切な学習であると考えられる。【教科の目標（2）】

また、読み手を意識した丁寧な言葉遣いや文字などについても、適宜確認しながら指導していきたい。【中学部1段階〔知・技〕ア-（ア）・（カ）、ウ-（イ）・（ウ）】

(3) 指導観

導入では昨年の映像を見ての感想や、本年度の取組や意欲など自由に発言できるようにし、その中で文化祭への期待感を高めていくとともに、多くの人に見に来てもらいたいという気持ちを引き出し、そのために招待状を書くという学習課題につなげていく。

招待状の作成に当たっては基本形のサンプルを用意し、日時、場所等の客観的な情報を正しく伝える部分と、ぜひ見に来てほしいという気持ちを伝える部分の二つで構成することを確認したうえで学習を進めていく。

文化祭は、ステージ発表や作業製品の製作・販売等個々の活動も多いため、必要な情報を整理するための補助プリントを用意する。また、プリントに整理した内容から下書きをする際には、個々の実態に応じて定型の書き込みプリントを用意し、文の構成を理解できるようにし、文章を書くことへの苦手意識を減らしながら作成できるようにしていく。

書くことの指導が中心となるため、個別の指導が多くなるが、「伝える」ということを意識することができるように、生徒相互の関わりとして、自分が考えたり、まとめたりしたことを発表する場面を設定する。基本情報の確認場面はもとより、発表し、友達の感想を聞くことで文章の見直しや、新たに伝えたいことへの気付きにつながれると良いと考える。【中学部1段階〔思・判・表〕B-オ】

文化祭に向けた生徒の前向きな気持ちを生かし、生徒が意欲を持って言葉で人に伝える学習が行えるようにしたい。

3 生徒の実態

氏名（記号）	生活全般の実態	題材に関する実態
A	<ul style="list-style-type: none"> ・明るく活動的であるが、興味のある物に惹かれ活動に集中できないことがある。 ・係の仕事等をすぐに覚え、一人で行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人との関わりは好きで、自分から話しかけ、二語文、三語文で話すことができる。 ・人前で話すことに苦手意識がある。
B	<ul style="list-style-type: none"> ・初めてのことに消極的であるが、見通しがもてると意欲的に活動できる。 ・基本的な生活習慣は身につけているが、教員への依存心が強い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し始めると、とりとめがなくなり内容が伝わりにくいことがある。 ・小学校低学年程度の漢字を読むことができる。 ・感想発表等人前で話すことは好きである。
C	・・・	・・・
D	・・・	・・・

4 題材の目標

(1) 共通目標

- ①相手に伝えるために必要な情報を考えることができるようにする。（思考力、判断力、表現力等）
- ②相手に伝わるように簡単な構成を考えることができるようにする。（思考力、判断力、表現力等）
- ③手紙（招待状）の定型を理解できるようにする。（知識及び技能）

(2) 個人目標

氏名（記号）	題材に関する目標	支援プランB（自活）の目標
A	<ul style="list-style-type: none"> ・相手に伝えるべき、必要な情報を考えることができる。 ・気持ちや事柄を言葉で表すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見通しを持って学習に集中する時間を延ばしていく。
B	<ul style="list-style-type: none"> ・招待状の構成を考えることができる。 ・丁寧な言葉遣いを意識して手紙を書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手を意識して自分のことを伝えようとするすることができる。
C	・・・	・・・
D	・・・	・・・

5 指導計画

	授業目標	授業時数
1	<ul style="list-style-type: none"> ・文化祭を見に来てほしいという気持ちをもつことができる。 	1
2	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な情報を上げることができる。 ・構成を意識して下書きを書くことができる。 	4 本時3/4
3	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなの前で発表することができる。 ・友達の発表を聞くことができる。 	1
4	<ul style="list-style-type: none"> ・表記に気を付けて清書することができる。 	1

6 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の視点

- ・写真や映像を活用することで活動の理解を高め、意欲的に取り組めるようにする。（主体的な学び）
- ・補助プリントや、定型を示すなど自ら活動に取り組めるよう工夫する。（主体的な学び）
- ・発表の場を設定することで、それぞれの考えを広げたり、相互評価を通して学習を振り返ったりすることができる機会を設ける。（対話的な学び）

7 本時の構成

(1) 本時の目標

本時に關する目標	
共通目標	<ul style="list-style-type: none"> 必要な情報をまとめ、正しく文章に書くことができる。【知識及び技能】 自分の気持ちが伝えられるように必要な情報を考えることができる。【思考力、判断力、表現力等】 文化祭を見に来てほしいという気持ちをもって、活動ができる。【学びに向かう力、人間性等】
A	<ul style="list-style-type: none"> 見本を見て正しい文字を書くことができる。【知識及び技能】 教員と友達とのやり取りの中で、気持ちや考えを言葉にすることができる。【思考力、判断力、表現力等】 1つ1つの活動に見通しをもち、活動することができる。【学びに向かう力、人間性等】
B	<ul style="list-style-type: none"> 伝えたい情報に優先順位をつけ、分かりやすく伝えるための構成を考えることができる。【知識及び技能】 情報を整理して分かりやすく伝えることができる。【思考力、判断力、表現力等】 文化祭を見に来てほしいという気持ちを持って、主体的に活動することができる。【学びに向かう力、人間性等】
C	・・・
D	・・・

(2) 展開

配時	学習活動	指導上の留意点（・指導の手だて*評価の観点）				備考
5分	あいさつをする。 前回の振り返りと、本日の学習の確認をする。	<ul style="list-style-type: none"> 姿勢を整え、教員に注目するよう促す。 ○前回のプリントを基に振り返りを行う。 				学習ファイル
		A	B	C	D	
25分	プリントに即して必要な情報を挙げていく。	<ul style="list-style-type: none"> ○プリントに注目させ、項目に沿って質問することで、前時の学習内容を確認できるようにする。 ○前時と同様の方法で本時は作業学習についてまとめることを伝える。 ○プリントを配布する。 ①「作業班名」を口頭で答えさせた後でプリントに記入する。 ②「作業で取り組んでいること」をプリントに記入する。 *必要な情報を考え、伝えたり書いたりできたか。(評) *正しく丁寧に記入できたか。(評) 				プリント ミニホワイトボード
		<ul style="list-style-type: none"> 全体への質問に加え個別に質問する 答えを教員が小さなホワイトボードに記入しながら確認したうえで、プリントに記入させていく 	<ul style="list-style-type: none"> まず、一人のできる部分を取り組ませ、適宜ヒント等を与えながらプリントを完成させていく 	・	・	
		<ul style="list-style-type: none"> ③「作業で頑張っていることや製品のセールスポイント」をプリントに記入する。 *抽象的な事柄を言葉で表すことができたか。(評) 				
		<ul style="list-style-type: none"> 実際の製品や、写真を提示し具体的に個別の質問をし答えを促す。 気持ちを表す絵カードを併用し、思いを言葉で表現できるようにする。 書字の指導は同様にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 実際の製品や、作業日誌の記載内容等をもとにプリントに記入する 伝えたい情報の順位付けを考えさせる。 *複数挙げた中から大切なことを選ぶことができたか。(評) 	・	・	

15分	プリントに記載した内容を発表する。	○プリントに記載した内容を発表する。 ○適宜感想を発表する。	発表用ひな型シート
		・発表のひな形を提示し、発表の仕方を確認する。 ・発表の仕方や内容について、生徒同士で評価する場を設ける。 *文の構成を考えて、発表することができたか。(評) *発表をよく聞き、自分の考えを伝えることができたか。 *他者の意見を聞いて、よりよいものにしようとしたか。	
5分	次回の学習の確認をする。 あいさつ	○プリントをファイルに綴じる。 ○次回、招待状の下書きをすることを伝える。 ○姿勢を整え、教員に注目するよう促す。	

8 本時の評価

(1) 児童生徒の評価

A	・招待状に書く情報を、挙げることができたか 【知識・技能】
	・見本を見て正しく文字を書くことができたか 【知識・技能】
B	・教員や友達とのやり取りの中で、気持ちや考えを言葉にすることができたか 【思考・判断・表現】
	・1つ1つの活動の流れに見通しをもち、取り組めたか 【主体的に学習に取り組む態度】
C	・招待状に書くために必要な情報をまとめることができたか 【知識・技能】
	・プリントを基に分かりやすく伝えるための構成を考えることができたか 【知識・技能】
D	・招待状に関わる事柄や、気持ちや考えを言葉で示すことができたか 【思考・判断・表現】
	・文化祭を見に来てほしいという気持ちをもって、主体的に取り組めたか 【主体的に学習に取り組む態度】
C	・・・
D	・・・

(2) 教師の指導の評価 (学習環境や教材教具等についての評価も含む)

ア 授業構成 (指導手順、時間配当、指導形態等) について

- ・前回の振り返りを通して、招待状を書く目的を確認できたか。 (主体的な学び)
- ・生徒が自分で考えを挙げたり、まとめたりする十分な時間が確保できたか。 (主体的な学び)
- ・教員や生徒とのやりとりを通して、自分の考えを深める場面設定ができたか。 (対話的な学び)

イ 教師による支援 (環境設定、教材教具の工夫等) について

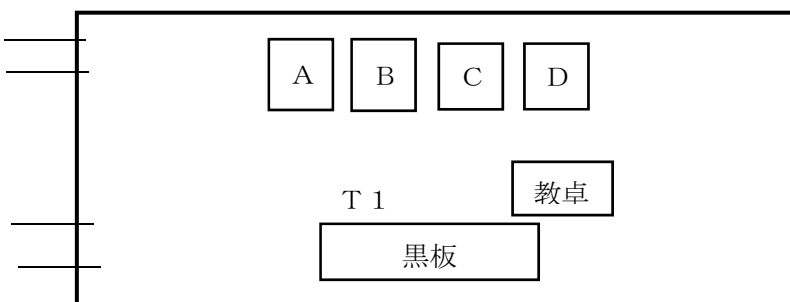
- ・プリントやシートを使うことで、生徒が自分で情報を整理したり、発表したりすることができたか。 (主体的な学び)
- ・生徒の自主性を大切にし、必要に応じた支援ができたか (主体的な学び)

ウ 自由記述 (授業について気付いたことがありましたら記入の上T1に提出してください)

記入例：ねらいに対して他にどのような活動が考えられるか、地域資源や教材のアイデア等

9 備考

(1) 教室配置図



(2) 準備するもの

学習プリント、発表用ひな型シート、ミニホワイトボード

第2節 各教科等を合わせた指導 生活単元学習 中学部2年〇組(6名)

1 年間指導計画

学期・月	単元・題材名	授業目標	指導内容・手立て	評価	時数
1	4 「中学2年生の生活とは」	<ul style="list-style-type: none"> ・中2での行事や学習を知り、2年生としての役割やふさわしい姿が分かる。【知・技】 ・目標を考え提案や発表ができる。【思・判・表】 ・目標を意識し、意欲や自信を持って生活や学習ができる。【学・人】 	<ul style="list-style-type: none"> ・2年生の主な活動や行事の説明 ・『カッコいい先輩』の実演 ・学級目標、個人目標の考察 ・個人目標の発表・学級目標の掲示 	<ul style="list-style-type: none"> ・発問や実演をしながら進めたことで、積極的な発言が多く、自分ができそう、または頑張りたい目標を考え、意欲を持つことができた。 	8
	5 「運動会を頑張ろう」	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会の流れや種目内容を知り、具体的な活動や目的、役割が分かる。【知・技】 ・自分の目標を考え発表ができる。【思・判・表】 ・目標に向けて努力したり、友達の頑張りに目を向けることができる。【学・人】 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度のビデオ視聴 ・種目と内容の説明、手本の提示 ・個人目標決め、発表、掲示 ・ビデオ視聴、感想発表、写真掲示 	<ul style="list-style-type: none"> ・練習時に目標を意識できる声かけ等の支援により、個々の意欲や達成度を上げることができた。 ・自分から出来栄を伝えに来たり、友達を称賛したりする様子が見られた。 	6
2	6 7 「自分で簡単ごはんを作ってみよう」	<ul style="list-style-type: none"> ・バランスの良い献立や適量を考え、食事の役割や大切さがわかる。【知・技】【思・判・表】 ・調理家電等の適切な扱い方を知り、基本的な操作や調理ができる。【知・技】【思・判・表】 ・自分の食生活を振り返り、改善点に気付いたり、工夫したりしようとする意欲が持てる。【学・人】 	<ul style="list-style-type: none"> ・給食献立と食事バランスガイドの読み取り ・電子レンジやオーブンの使い方 ・お湯の注ぎ方 ・インスタント食品の扱い方 ・タブレットや本による調べ学習 	<ul style="list-style-type: none"> ・家電を使って簡単な食事を作る体験ができた。自分でできることが分かり、達成感や自信につながった。 ・家庭に学習過程や成果を伝えられた。個々の課題に応じて食生活の改善やお手伝い活動につなげていく。 	10
	9 10 「身だしなみを整えよう」	<ul style="list-style-type: none"> ・身だしなみや清潔を保つことの大切さを知り、適切な手順での衣服の着脱や自己点検ができる。【知・技】【思・判・表】 ・身だしなみや清潔を自分から意識し、整えようとする事ができる。【学・人】 	<ul style="list-style-type: none"> ・『身だしなみってなんだろう?』 ・『こんな時、どう思う?どうする?』 ・食事や応対のマナー、整理整頓 ・洗濯の体験 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達同士での見合いや意見交換をすることで、自分への気づきや身だしなみへの意識が生まれた。 ・この授業をきっかけに日常生活の中で習慣化していく必要がある。 	8
3	11 「宿泊学習を成功させよう」	<ul style="list-style-type: none"> ・日程や活動内容、公共施設利用のきまりやマナーを理解し行動できる。【知・技】 ・意欲的に土産を選んだり、楽しみな活動を考え伝えることができる。【思・判・表】【学・人】 	<ul style="list-style-type: none"> ・目的地、日程、活動内容の解説 ・掲示物やしおり作り ・お土産の選定、買い物練習 ・持ち物調べ 		8
	12 1 2 「喫茶店を開こう」	<ul style="list-style-type: none"> ・喫茶店での仕事の内容や必要な道具等を調べ、協力して安全に活動することができる。【知・技】 ・集団活動に進んで参加し、やりたい仕事を選び、協力して役割を果たすことができる。【思・判・表】 ・自分の役割や手伝いを進んで行える。【学・人】 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の探索や調べ学習 ・役割の分担や買い物準備 ・作製・練習(お菓子、お茶、接客) ・招待状の配布 ・お店の開店 		16
	3 「進級に向けて準備しよう」	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の成長や季節の変化が分かる。【知・技】 ・頑張ったことや友達、家族との関わりを振り返り、手紙を書くことができる。【思・判・表】 ・達成感を持って意欲的に諸活動ができる。【学・人】 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年間の振り返り ・自分カレンダー作り ・アルバム作り ・家族・友達・自分への手紙 		14
授業評価・改善					総時数 70

2 本指導案

中学部 2年2組 生活単元学習 学習指導案

日 時 令和〇〇年〇〇月〇〇日 (〇曜日)
第〇時 〇〇:〇〇~〇〇:〇〇
場 所 〇〇〇〇
指導者 〇〇〇〇 (T1) 〇〇〇〇 (T2)

1 単元名 「自分で簡単ごはんを作ってみよう」

2 単元設定の理由

(1) 生徒観

本グループは、男子4名、女子2名で構成されている。主たる障害は知的障害で、自閉症を伴う生徒が3名、うち1名は情緒障害を伴っている。認知面やコミュニケーション面では、簡単な会話が成立する生徒が3名、簡単な言葉での指示を理解し、自発語はないものの発声や指さし等で意志の表出ができる生徒が2名、言葉での指示理解は難しく、表情や行動で感情や意志を汲み取る必要がある生徒が1名である。日常生活動作や操作面については不器用さがあるものの、必要な補助を受けながらそれぞれ自分のペースで行うことができる。そして新しい学級になってから2ヵ月が経ち、教員や友達の言動に刺激や影響を受けながら、生活や学習への興味関心が一層広がっている。

その一方で、興味関心があっても行動することを拒否したり、上手くいかないとすぐに苛立ってしまったりする等、気持ちに言動が伴わないことが多い。このような行動の背景には、思春期であるために「こうなりたい」という願望と不安定な自我が共存していること、過去の負の体験を引きずりやすく、自分に自信がもてずにいること、適切な表現の仕方が分からないことが考えられる。つまり「自分でやり遂げた」、「こうすればできる」という達成感のある成功体験の積み重ねと、適切な表現方法の習得が必要な生徒たちである。

なお、今回取り扱う食事に関しては、食べることは楽しみであるものの、家庭の事情で朝食を食べてこない、容姿を気にして誤った食生活をしている、偏食が激しい等の課題がある。

(2) 単元観

本単元では「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせ、生徒自身が自分の食生活における課題に気付けるようにするため、まず「健康」という視点から「給食」をモデルにバランスの良い献立と適量を具体的に考えていく。その中で、食事の楽しさや役割、大切さがわかるようにしていく。次に、「生活文化の継承」という視点から「自分でできる実用的な調理」を行う。これまでの調理学習は調理手順が多く、役割を分担して行うこともあるため、多くの生徒にとって実用的とは言い難い。そこで、身近な「調理家電」の使い方を学び、手軽な「インスタント食品」を活用し調理手順を簡単にすることで、見通しを持って自分一人で食事を作ることができるようにする。

これらの学習は、各教科「職業・家庭」の家庭分野「衣食住の生活」の「ア食事の役割」「イ調理の基礎」の1~2段階、「国語」の「A聞くこと・話すこと」「B書くこと」の1段階、「数学」の「Dデータの活用」の1段階、等を組み合わせ、関連させながら取り扱う。

そして、本単元での学習や「自分でやり遂げた」体験がきっかけとなって、自分で簡単な食事を用意したり、健康的に食事を楽しんだり、適切に表現する力や主体性の高まりにつながることを期待する。

(3) 指導観

「食事の役割」の学習では、給食献立を例に挙げ、食事バランスガイドを活用して主食、副菜、主菜などのバランスをチェックすることで、バランスの良い食事や適量について具体的にイメージできるようにしていく。その中で、食事は健康を保ち、体の成長や活動のもとになったりすること、規則正しい食事が生活リズムを作ること、朝食を食べることによって学習や活動への体の準備ができることなどにも触れる。また給食時を振り返り、おいしかったものや楽しかったことについて話し合うことを通して、食事は人と楽しく関わり和やかな気持ちになることを知り、日常の食事の大切さに気付くように促していく。

「実用的な調理」の学習では、個々の実態に応じて支援の質や量を調整しながら、安全で正しい「調理家電」の使い方や操作の体験を一人ずつ行う。その際、生徒が自分で手順を確認したり、わからないことを質問したり、適切な表現方法で援助を求めたり、友達の良さに気付くことができるよう促し、達成感を味わえるようにする。また、給食の時間を利用して試食をし、自分たちで作ったものを味わいながら意見交換を行い、次回の授業での振り返りや発表につながるようにする。

このように身近な大人や友達とのやりとりを大事にすることで自分に置き換えて考えたり、主体的で健

康的な食生活の工夫につながったりするように、支援していきたい。

さらに、学習過程や成果を家庭に伝え、家庭生活での「自分でやる力」や「お手伝い」といった生活力につなげ、誰かの役に立つ経験を通して自己有能感を得られるよう、家庭と連携を図っていきたい。

3 生徒の実態

氏名 (記号)	生活全般の実態	単元に関する実態
A	<ul style="list-style-type: none"> ・食事は好き嫌いなく、よく食べる。 ・ひらがな、カタカナ、小3程度の漢字の読み書きができ、パターン化した挨拶や報告はできる。 ・選択肢があれば、質問に答えることができる。 ・大きな声や集団が苦手だが、興味がある活動には集中して取り組める。 ・自分のペースややり方がはっきりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調理には関心と経験があり、意欲的に手早く作業を進めることができる。 ・見本と比較することで、自分の食生活を大まかに振り返ることができる。 ・友達に合わせたり順番を待ったりすることは、わずかな時間ならできる。 ・あらかじめ手順や指示を明確に示しておくことに従うことができる。
B	<ul style="list-style-type: none"> ・容姿を気にして給食を残すことが多い。 ・ひらがなの読み書きは一部できる。 ・家庭では簡単な会話をするが、学校では発語はなく指差し、首を振る等で意思表示をする。 ・一般的に運動動作が緩慢でぎこちないが、作業活動は補助を受け入れて行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調理経験は少ないが、興味関心はある。 ・特定の教員からの声かけで学習に意欲を持つことができる。 ・具体的な方法を伝えたり、補助をしたりすれば、活動に取り掛かることができる。 ・力加減や微調整が難しい。
C	<ul style="list-style-type: none"> ・身辺処理は一般的に介助が必要である。 ・食感や温感による偏食がある。 ・発語はないが、うなずきや挙手、相手の手を取ってやりたいことを指すなどして意志表示ができる。 ・信頼できる大人に寄り添い行動することが多い。 ・興味関心の幅が狭く感触遊びが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食べ物や調理への興味関心はあるが、偏食のため調理に参加しても食べないことがある。 ・常にそばに付き添い、必要な補助をすることで、落ち着いて活動に参加できることが多い。

4 単元の目標

(1) 共通目標

- ①バランスの良い献立や適量を考え、食事の役割や大きさがわかるようにする。
- ②調理家電やインスタント食品の適切な扱い方を知り、基本的な操作や調理を自分でできるようにする。
- ③自分の食生活を振り返り、改善点に気付いたり、工夫したりしようとする意欲が持てるようにする。

(2) 個人目標

氏名 (記号)	単元に関する目標	自立活動の目標
A	<ul style="list-style-type: none"> ・大まかな食事バランスを理解し、主食・主菜・副菜の組み合わせや適量を考え、発表することができる。 ・調理家電の使い方を正しく理解し、手順表に従った操作ができ、困った時に援助を求めることができる。 ・作ってみたい食事を考え、使う調理家電や大まかな作り方を考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・要求や気持ちを言葉で伝えることができる。 ・友達を意識して活動することができる。
B	<ul style="list-style-type: none"> ・大まかな食事バランスと適量を理解したり、食事の役割や大切さを伝えたりすることができる。 ・インスタント食品の扱いや調理家電の操作、必要な道具の準備等を自分で行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・色々なことに挑戦する意欲を高める。 ・自分の気持ちを伝えることができる。

	・自分の食生活を振り返り、改善しようとする意欲を持つことができる。	
C	<ul style="list-style-type: none"> ・カードに注目し、主食・主菜・副菜の中から、指定された献立や食品を選択することができる。 ・指示や補助を受け入れて、落ち着いてインスタント食品や調理家電の操作を行うことができる。 ・食べたい物や使う調理家電を、教員と一緒に選択肢の中から選ぶことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近処理や生活の力を高める。 ・興味関心を広げ、好きな活動を見つける。 ・適切な関わり方を身につける。

5 指導計画

	活動内容	授業時数
1	バランスの良い食事とは ～給食のメニューをよく見てみよう～	2時間
2	食事の役割を考えよう	1時間
3	自分で簡単ごはんを作ってみよう ①電子レンジ、オーブントースター、電気ポットの機能と使い方 ②「簡単ごはんA」・・・ごはん・ハンバーグ（レトルト）、温野菜、みそ汁（即席） 電子レンジと電気ポットを使って作る。 ③「簡単ごはんA」の調理の振り返りと発表 ④「簡単ごはんB」・・・食パンピザ、ポテトフライ（冷凍食品）、スープ（即席） オーブントースターと電気ポットを使って作る。 ⑤「簡単ごはんB」の調理の振り返りと発表	5時間 (本時 4 / 5)
4	休日のお昼ご飯を作ってみよう ①何を作ったらいい？（冷凍チャーハン、カップラーメン、お餅 等） ②作ってみたいメニューと調理家電を選ぼう	2時間

6 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の視点

- ・身近な題材やわかりやすい資料を活用し、バランスの良い食事や適量が具体的にイメージできるようにする。
(主体的な学び)
- ・食事の役割や大切さについてクイズ形式でのやり取りやわかりやすい具体例を挙げながら伝える。
(対話的な学び)
- ・現在や将来の生活力や人の役に立つ経験につながる「実用的な調理学習」を行う。
(深い学び)
- ・調理学習の中で、生徒が自分で確認や質問をしたり、援助を求めたり、友達の手操作を見て学ぶことができるよう、個に応じた支援の調整や時間設定をする。
(対話的な学び)
- ・「わかったこと・できたこと」を生かし、自分で「作ってみたいお昼ご飯」や「作り方」を考える活動を設定する。
(深い学び)
- ・給食を楽しく食べながら学んだことを意見交換し、個々の食生活の課題に気付けるようにする。
(深い学び)

7 本時の構成

(1) 本時の目標

	本時に関する目標
共通 目標	①オーブントースターや電気ポットの機能と安全な使い方を知り、自分でピザを焼いたり スープを作ることができる。 【知識及び技能】 ②手順を確認しながら操作をしたり、困った時に適切に援助を求めることができる。 【思考力、判断力、表現力等】
A	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の順番を着席して待ち、安全に気を付けて、丁寧に作ることができる。 【知識及び技能】 ・手順カードに従って操作ができ、困った時などに言葉で伝えることができる。 【思考力、判断力、表現力等】

B	<ul style="list-style-type: none"> 必要な道具を準備し、自分でピザを焼いたり適量のお湯を注ぐことができる。【知識及び技能】 手順を確認しながら操作し、困った時に援助を求めることができる。【思考力、判断力、表現力等】
C	<ul style="list-style-type: none"> 教員の補助を受けながら、ピザの出し入れやポットでお湯を注ぐことができる。【知識及び技能】 教員と手順や操作のやり取り（指差しや選択）ができる。【思考力、判断力、表現力等】

(2) 展開

配時	学習活動	指導上の留意点（●指導の手立て・★評価の観点）						備考
		A	B	C	D	E	F	
2分	<ul style="list-style-type: none"> ○集合し、着席する。 ○挨拶をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●授業開始5分前に全体に予告をし、準備を促す。 ○調理学習の身支度をして着席し、号令に従って挨拶をする。 ●時計を見るよう促し、ポットの準備の声かけをする。 ●周囲の状況への気づきを確認し見守る。 ●席に誘導し着席を促す。 						<ul style="list-style-type: none"> ・食事バランスガイド ・献立カード
8分	<ul style="list-style-type: none"> ○前回の学習の振り返りをする。 ○本時の学習内容を知る 	<ul style="list-style-type: none"> ●前回作った「簡単ごはんA」の献立や「電子レンジ」「電気ポット」を使って作ったことを確認し、想起を促す。 ○前回は思い起こし、前回作った献立や使った調理家電を答える。 ●「何を作った？」等と個別に質問し、回答を促す。 ●道具カードを見せ、「電子レンジ」「ポット」はどれか選択できるようにする。 ●電子レンジやごはん、ハンバーグの写真カードを提示する。 ○本時の「簡単ごはんB」の献立（写真）を見る。 ○食事バランスガイドに沿ってチェックをする様子に注目する。 ●食材（食パン・チーズ等/冷凍ポテトフライ/フリーズドライのミネストローネ・卵スープ等）を見せ、「オーブントースター」と「電気ポット」のどちらを使うか質問する。 ○使う調理家電を考え答えたり、正解を確認する。 ●2つのグループに分かれ、一人ずつ3品作ること確認する。 ○椅子を移動し、手洗いをする。 						<ul style="list-style-type: none"> ・食品カード ・道具カード ・食材
5分	<ul style="list-style-type: none"> ○「オーブントースターの使い方」と注意事項を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ●オーブントースターは熱くなるので、温め始めたら必ずトングやミトンを使うように話し、実物や使い方を見せる。 ●まず、ポテトから焼くことを伝える。 ○個別の指示を聞き、必要な道具の準備をする。 ●注目を促す。お皿を人数分数えて準備するように伝える。 ●ハサミとトングを準備するように伝える。 ●写真カードで天板とミトンの選択を促し一緒に運ぶ。 						<ul style="list-style-type: none"> ・オーブントースター ・トング ・ミトン ・天板 ・ハサミ ・皿
10分	<ul style="list-style-type: none"> ○冷凍ポテトを焼く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○冷凍ポテトの調理手順を考え、答える。 ●ヒントや選択肢を提示する。 ●袋の表示説明の確認を促す。 ●手順カードに注目を促す。 ★言葉で答えられたか。 ★袋に書いてあることを理解できたか。 ★カードに注目や指差しができたか。 ●電子レンジと違い、袋から出して焼くことを確認する。 ●調理手順を確認し、順番を決める。 ○一人ずつポテトを天板にのせ、タイマーをまわす。 ★ハサミで丁寧に ★落とさずにポテ ★自分でポテト 						<ul style="list-style-type: none"> ・冷凍ポテト ・手順カード（ポテト）

		袋を開けられたか。 ★順番を守って活動ができたか。	トを天板にのせられたか。 ★自分でタイマーをまわせたか。	をのせようとしたか。 ★教員と一緒にまわせたか。					
10分	○食パンピザに具材等をのせる。	●食パンピザを作る手順をカードも併用して確認する。 ○手順に従って、食パンに具材をのせ、トッピングをする。 ●正しい手順でできているか見守る。 ★丁寧に作ることができたか。 ★わからないことを自分から言葉で質問することができたか。			●必要に応じて声かけや補助を行う。 ★意欲的に行えたか。 ★困った時に援助を求めることができたか。	●手順を指さし等で伝え、できるだけ自分でやれるようにする。 ★支援を受け入れて具材をのせることができたか。			●食パン ●ケチャップ ●スライスチーズ ●トッピング ●手順カード (ピザ)
3分	○焼き色を確認し、ポテトを取り出す。	●オーブントースターを開け、色の変化や音に注目を促す。 ●熱いので、どうすれば良いか確認する。天板は教員が取り出す。 ○トングを使い、一人ずつ順番にお皿へ取り出す。 ★ゆっくり丁寧に取り出せたか。			★トングを準備し使うことができたか。	★補助を受け入れて取り出せたか。			
2分	○食パンピザを焼く。	●天板がまだ熱いので、手で触れないように注意を促す。 ○具材が落ちないように丁寧に食パンピザを天板に置く。 ★ゆっくり丁寧にのせることができたか。 ★指定時間のタイマーをかけることができたか。			★具材を落とさないでのせることができたか。 ★指定時間のタイマーをかけることができたか。	★補助を受け入れてのせられたか。 ★教員と一緒にタイマーをまわせたか。			
5分	○即席スープを作る。	●電気ポットのお湯が沸いていることを確認する。 ●電気ポットの扱い方とスープのつくり方、道具を確認する。 ○作りたいスープを選択し、カップに入れ、自分でお湯を注ぐ。 ●必要があればカードで手順を確認・修正を促す。 ★安全に気を付けて丁寧に湯を注ぐことができたか。			●自分で安全を意識できるよう先に声をかける。 ★好きなスープを選択できたか。 ★こぼさないように気を付けて適量のお湯を注げたか。	●安全に配慮しながら本人が行えるよう支援する。 ★好きなスープを選択できたか。 ★教員の補助を受けお湯を注げたか。			●電気ポット ●カップ ●スープ ●スプーン ●手順カード (スープ)
3分	○焼き色を確認し、食パンピザを取り出す。	●オーブントースターを開け、焼き色やチーズの溶け具合に注目を促す。 ●熱いので、どうすれば良いか確認する。天板は教員が取り出す。 ○トングを使い、一人ずつ順番にお皿へ取り出す。 ★ゆっくり丁寧に取り出せたか。			★トングを使うことができたか。	★補助を受け入れて取り出せたか。			

2分	○まとめをする。 ○挨拶をする。	●全体的な評価を伝える。 ○挙手をして感想を発表する。 ●給食の時間に試食をしたり、調理の振り返りをする事を伝える。 ●次回の学習について触れる。 ○号令に従って、挨拶をする。	
----	---------------------	--	--

8 本時の評価

(1) 児童生徒の学習評価

A	<ul style="list-style-type: none"> ・安全の意味がわかり、自分の順番を待つことや丁寧に作ることができたか。 【知識・技能】 ・手順カードを確認しながら操作し、困った時に伝えることができたか。 【思考・判断・表現力】 ・説明や指示に注目したり、自分の言葉で振り返りができたか。 【主体的に学習に取り組む態度】 	
B	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な道具がわかって準備ができたり、適量を意識して自分で操作ができたか。 【知識・技能】 ・手順を考えながら操作し、困った時に援助を求めることができたか。 【思考・判断・表現力等】 ・積極的に操作したり、気付いたことを伝えることができたか。 【主体的に学習に取り組む態度】 	
C	<ul style="list-style-type: none"> ・活動に見通しを持ち、教員とピザの出し入れやお湯を注ぐことができたか。 【知識・技能】 ・教員と手順や操作のやり取り（指差しや選択）ができたか。 【思考・判断・表現】 ・説明や指示に気持ちを向け、支援に応じることができたか。 【主体的に学習に取り組む態度】 	

(2) 教師の指導の評価

ア 授業構成（指導手順、時間配当、指導形態等）について

- ・活動に見通しを持って取り組めるわかりやすい指導手順や指導形態であったか。 (主体的な学び)
- ・生徒自身がやることを確認し、意欲を持って取り組める時間の確保ができていたか。(主体的な学び)
- ・簡単な調理体験の学習を中心に設定したことで、自分で考えて操作したり、自分から援助を求めるなどの生徒の主体的な学びにつなげることができていたか。(主体的な学び)
- ・給食、オーブンレンジ、冷凍食品など身近な物の活用を通して、自分の食生活への考えや行動が広がり深まるような場面を設定できたか。(対話的な学び)
- ・授業で学んだことを、役立てている様子が見られたか。(深い学び)

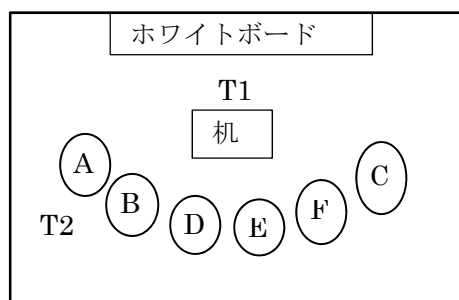
イ 教師による支援（環境設定、教材教具の工夫等）について

- ・生徒が主体的に教材を活用したり体験活動ができたりするための支援や工夫ができたか。(主体的な学び)
- ・生徒が活動の中で教員や友達と関わったり、影響を受けたりする場面の設定ができていたか。(対話的な学び)
- ・生徒にとって、現在や将来の生活につながる内容設定の工夫があったか。(深い学び)
- ・学んだことの価値や意義に気付くような問いかけや仕掛けを工夫できたか。(深い学び)

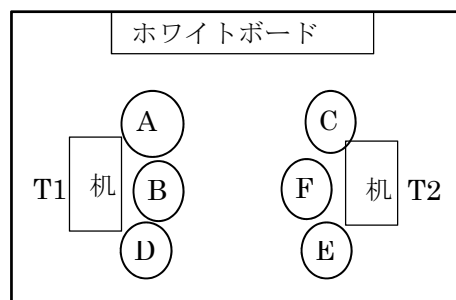
9 備考

・配置図

① 始めの配置



② 調理学習時



- ・参考資料 ①食事バランスガイド ②給食献立表、給食室掲示物

第3節 作業学習「紙芸班」

高等部(10名)

1 年間指導計画

学期・月	単元・題材名	授業目標	指導内容・手立て			評価	時数
1	4 5 6 7		牛乳パックを原料とした和紙作り	和紙を利用した製品作り	製品販売		
2	9	「いざ文化祭！ お客様に喜ばれる製品を作ろう」 ・作業工程、作業内容を理解し、根気強く働くことのできる力を身に付ける。 【知・技】 ・作業工程の中で、作業の精度や効率を考え、協働して取り組むことができる。 【思・判・表】 ・お客さんから「喜ばれる製品」として、製品の品質向上を目指し意欲を持って取り組む。【学・人】	牛乳パック切り	ポチ袋	道の駅文化祭	・繰り返しの活動から見通しをもて、集中して取り組むことができた。 ・作業工程が滞ることなく、各自の役割を果たすことができた。また、友達と協働して取り組むことができた。 ・「喜ばれる製品」ということを考え、意欲的に活動ができた。	66
	10		ビニールはがし	祝い袋			66
	11		紙ちぎり	一筆せん			
	12		紙すき	カレンダー			
			足踏みプレス	フリーノート			
			ローラー	お手紙セット			
			・安全に、見通しを持って取り組めるように環境を整える。 ・支援具等を用い、「できる状況づくり」を行う。 ・チームで取り組み、報告、連絡、相談等の場を設定する。 ・「喜ばれる製品」について話し合いを通して、自分たちの意見を共有できるようにする。 ・目標を設定や振り返りをし、意欲的に取り組めるようにする。				
3	1 2 3						
授業評価・改善							総時数

2 本指導案

高等部 紙工芸班 作業学習 学習指導案

日 時 ○○○○年○○月○○日 (○曜日)
第○時 ○○:○○~○○:○○
場 所 ○○○○
指導者 ○○ ○○(T1) ○○ ○○(T2)
○○ ○○(T3) ○○ ○○(T4)

1 単元名 「いざ文化祭！お客様に喜ばれる製品を作ろう」

2 単元設定の理由

(1) 生徒観

本作業班は、1年生4名（男子2名、女子2名）、2年生3名（男子2名、女子1名）、3年生3名（男子2名、女子1名）の計10名で構成されている。主な障害は知的障害であるが、自閉症スペクトラム障害の生徒が2名、ダウン症の生徒が1名など、様々な障害を有する。常時、個別対応の必要な重度の生徒も2名いる。コミュニケーションについては、日常の会話が成立する生徒、2～3語文の表出言語のある生徒、表出言語はないが言語理解ができる生徒など、幅広い。作業への参加態度では、体力、集中力に個人差があるが、ほとんどの生徒が分担された仕事に持続して取り組むことができる。基本的技能については、手指の操作が苦手なため、仕事に消極的な生徒もいるが、補助具の使用で取り組むことができる。今後の課題としては、精度と効率のバランスを生徒自らが判断しながら作業していくことも求められる。

(2) 単元観

文化祭は、毎年2学期に開催される学校をあげての一大イベントである。この日は、学校関係者だけでなく、多くの方々が来校される。高等部の生徒たちにとっては、製品販売を通して、さまざまな方と接することのできる貴重な日である。それは、生産から消費への流れを確認でき、作業学習での学びを發揮しながら社会と関わることのできる時間であり、達成感を感じられる体験として、大きな意義がある。

紙工芸班の製品は、「ポチ袋」「コースター」「祝い袋」など、牛乳パックをリサイクルした紙で製作される。材料が入手しやすく、永続性のある作業種である。作業工程がパルプ液づくり、紙漉き、製品加工と段階的に分かれており、生徒の実態、作業能力に応じて分担することができる。知的障害の状態等が多様な生徒が協働で取り組める作業である。

単元「いざ文化祭！お客様に喜ばれる製品を作ろう」は、生徒が楽しみにしているイベントをターゲットにして、目標を明確にできるのではないかと考え、設定した。これは、年間を通して継続的に取り組む作業学習の期間を区切り、テーマ化することで「マンネリ化」の弊害を防ぎ、モチベーションの向上に有効である。さらにお客様に喜ばれる製品をつくるためには、作業活動に打ち込む気持ち、品質向上のための製作技術、よりよい製品をつくらうという主体的な態度などが必要である。「お客様に喜ばれる製品を作ろう」を合言葉にやりがいをもって、製品作りに取り組んでほしい。

(3) 指導観

卒業後の社会では、働く生活が待っている。働く生活を学校教育の中で展開する時間が作業学習の時間であり、学習指導要領の「職業・家庭科」の職業分野を中心として取り組んでいく。学習指導要領の目標や内容にもあるように、将来の職業生活を見据え、必要な事項を見出して課題を解決していくことや、勤労の意義を理解して勤労に対する意欲や関心を高めることを大切に指導し、生徒には、作業活動そのものに「精いっぱい取り組む」気持ちを持ってほしいと考える。それは、仕事に目的と見通しをもち、「こんなことができた」「素敵な製品ができた」等、納得する気持ちに通じるものである。そのための支援として、「できる状況づくり」の設定が必要と考える。まずは、作業環境の整備が重要である。わかりやすい作業工程や個々の課題に沿った作業内容、写真やカードを使っての視覚支援、時系列での見通しや安全への配慮など、構造化を進めていく。「できる状況づくり」を充実していくことで、「生徒主体の作業（生徒だけで行える作業）」として、成立していく方向へ繋げていきたい。

また、「できる状況」の中でも、生徒にとって「難しいこと」「悩むこと」は出てくる。まず、生徒自らが考え、対話を通して思考を広げ、問題解決にたどり着くように支援し、社会自立に必要な事柄「報告・連絡・相談する力」にも繋げていきたい。主体的に作業活動に取り組み、達成感を積み重ねる体験をすることで自己調整（自己感情や行動統制）する力、人間関係を自主的に形成する力を身に付けられるよう、支援する。

3 生徒の実態

氏名（記号）	生活全般の実態	単元に関する実態
A	基本的な生活習慣は、言葉かけをきっかけにして動くことができる。活動に参加できない時もあるが、教師とのやり取りで、気持ちを切り替えることができる。	紙ちぎりには、机上の紙を確認すると自分から手を伸ばし、取り組むことができる。ちぎった紙は、決まった入れ物に入れることができる。
B	基本的な生活習慣は、ほぼ自立している。穏やかな性格で、教師の話をよく聞いて、活動できる。その日の授業予定を確認して動くことができる。	紙漉きの工程を理解しており、慎重に取り組むことができる。その日の目標枚数を決めて、漉いた紙の数を自分で数えながら、意欲的に取り組むことができる。
C	基本的な生活習慣は、自立している。日常の活動は、自分から行動することができる。授業参加も意欲的に取り組むことができる。	加工作業の手順を理解し、集中して取り組むことができる。細かい作業にも失敗しないように意識して丁寧に取り組むことができる。

4 単元の目標

(1) 共通目標

- ①作業工程、作業内容を理解し、根気強く働くことのできる力を身に付けるようにする。（知識及び技能）
- ②作業工程の中で、作業の精度や効率を考え、協働して取り組むことができるようにする。
（思考力、判断力、表現力等）（学びに向かう力、人間性等）
- ③「喜ばれる製品」として買ってもらえるよう、品質の向上を目指して意欲的に取り組めるようにする。
（学びに向かう力、人間性等）

(2) 個人目標

氏名（記号）	単元に関する目標	教育支援プランBの目標
A	紙ちぎりの流れがわかり、集中力を持続して取り組むことができる。	落ち着いた気持ちを持続させ、行動を調整することができる。
B	作業手順を正確に覚え、丁寧な紙漉きに取り組むことができる。	困ったり迷ったりした時に自分から相談することができる。
C	販売できる製品となるように加工を慎重に取り組むことができる。	周囲の状況を把握して、自分から報告、連絡、相談することができる。

5 指導計画

	活動内容	授業時数
1	文化祭に向けて、製品販売への見通しを持つ。	2時間
2	「喜ばれる製品」をたくさん製作する。	本時（1/2）
3	文化祭当日の販売活動を通して、完成の成就感を味わう。	2時間
4	「喜ばれる製品」作りを振り返る。	2時間

6 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の視点

- (1) 「主体的な学び」について、学習意欲や自己の目標設定、学習の振り返りが重要であると考え。
 - ・学習意欲を高めるために見通しが持てるような「できる状況づくり」を設定する。
 - ・生徒が自己の目標設定をすることで、作業への向き合い方の変化を促す。
 - ・学習の振り返りでは、生徒自ら作業ノートに学習過程や成果を記録し、生徒自身の気付きを促す。
- (2) 「対話的な学び」について、対話によって思考を広げ深めていくことを見取るための環境づくりが重要であると考え。
 - ・仲間と協働して取り組めるように生徒の実態、作業能力に応じて、作業工程を設定する。
 - ・作業終了後の振り返りの時間に仲間の発表を聞いて考え、コメントする機会を作る。
 - ・対話（言葉）でのやりとりが難しい生徒に対して、具体物を提示しての二者選択や生徒の行動を言語化してやりとりをするなど、個別の手立ての工夫をする。

- (3) 「深い学び」について、思考する場面を設定し、問題発見・解決に向けた活動を行う中で学びに向かう力を高めていくことが重要であると考え。
- ・これまでの作業経験で身に付けた知識や技能を活用して、作業場所の準備から作業工程、作業場所の片づけまでの一連の流れを（仲間と一緒に）生徒自身で動ける状況を作る。
 - ・作業中の問題解決に向けて、「報告・連絡・相談する力」を駆使できる状況を作り、人間関係を自主的に形成する力に繋げていく。
 - ・学びに向かう自己調整力を高めていくために、作業に主体的に取り組んだり、達成感を積み重ねていく体験をしたりする状況を作る。

7 本時の構成

(1) 本時の目標

ア 共通目標

- ・自分の作業分担や作業内容を理解し主体的に取り組むことができる。
(知識及び技能) (学びに向かう力、人間性等)
- ・「喜ばれる製品」になるよう、判断し、丁寧な製作活動に取り組むことができる。
(思考力、判断力、表現力等)
- ・報告や連絡、相談、質問等のコミュニケーションを取ることができる。
(思考力、判断力、表現力等)

イ 個人目標

観点	目標	該当生徒
知・技	・紙を見本と同じ位の大きさにちぎることができる。	A
	・紙を手に取り、ちぎり、ケースに入れるという手順がわかる。	E F
	・教員の支援を受けて、ちぎった紙をケースに入れることができる。	D
学・人	・持続して紙ちぎりやビニールはがしに取り組むことができる。	A
	・紙ちぎりやビニールはがしに自分から取り組むことができる。	E F
	・教員の支援を受けて、紙ちぎりやビニールはがしに取り組むことができる。	D
知・技	・均一な厚さの紙を失敗せずに漉くことができる。	B
	・紙漉きの工程がわかり、一人で紙を漉くことができる。	G
	・教員の支援を受けて、紙を漉くことができる。	H
学・人	・目標枚数をめざして、紙漉きに最後まで取り組むことができる。	B
	・作業時間中、手を止めることなく紙漉きに取り組むことができる。	G
	・言葉かけ等の支援を受けて、紙漉きに取り組めることができる。	H
知・技 思・判・ 表	・コースター作りの手順、効率を考え、目標枚数を作ることができる。	C
	・コースター作りの手順がわかり、一人で取り組むことができる。	J
	・コースター作りの手順を確認しながら、取り組むことができる。	I
学・人	・作業中にも友だちに声をかけ、取り組みを促すことができる。	C
	・一人で集中して作業に取り組むことができる。	J
	・友だちからの言葉かけ等の支援を受けて、作業に取り組むことができる。	I
思・判・ 表	・自分から報告や連絡、相談、質問等ができる。	B C D I J
	・促しに応じて報告や連絡、質問ができる。	A E F G H

(2) 展開

○学習内容

●教員の支援

※評価の観点

配時	学習活動	指導・支援の手立て 及び 指導上の留意点			備考	
		全体	パルプ作り	紙漉き・ローラー		製品加工
導入 10分	はじめのミーティングをする。 ・挨拶 ・出欠確認 ・作業内容確認	全体	A, D, E, F	B, G, H	C, I, J,	<ul style="list-style-type: none"> ・目標カード ・スケジュール表 ・分担表 ・生徒写真
展開 前半 50分	準備をする。	<ul style="list-style-type: none"> ● 班長へ作業を始める合図を出すように伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 作業道具を準備する。 ● 作業道具を写真で確認をし、保管場所へ取りに行くように促す。(T6) ※ 作業道具を用意することができたか。【知・技】 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 作業場のセッティングを行う。 ● セッティングが間違っている時は、レイアウト写真を見て確認するように促す。 ※ セッティングが正確にできたか。【思・判・表】 	<ul style="list-style-type: none"> ○ T1に製作する製品の確認をし、必要な道具を準備する。 ● 製品の説明をし、準備を促す。 ※ 製作に見通しをもち、意欲的に道具の準備ができたか。【主】 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真 ・カラートレー ・パルプ液 ・紙漉き用ケース ・紙漉き枠 ・あみ ・水切りトレー ・バケツ ・ひしゃく ・タオル ・ビニール板 ・足踏み板 ・タイマー ・版画プレス機
休憩 10分 後半 50分	作業をする。	<ul style="list-style-type: none"> ● 班長へ作業時間と休憩時間への意識を促し、合図の確認をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 紙ちぎりに取り組む。(AD は紙ちぎり、EF は、ビニールはがし) ● EF から D へ、D から A へ流れるように調整する。(T4T5T6) ● トレー上の紙(2cm×7cm)をちぎるのを促す。(T6) ● ちぎり用の紙がなくなったら教員に伝えるように促す。(T6) ※ 作業に集中できたか。友達と協力して取り組めたか。【主】 ● パルプ液は後日教員が大型ミキサーで準備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 紙漉きに取り組む。(BG は紙漉き、H はローラー) ○ 紙漉きの目標枚数を教員と相談して決める。 ● 均一な厚さの紙が漉けるように注意を促す。 ○ 足踏みプレスに取り組む。 ● しわが出ないようにタオルの敷き方を促す。 ※ 均一な紙を判断して、漉くことができたか。【思・判・表】 ※ 目標枚数を目標して、意欲的に取り組めたか。【主】 	<ul style="list-style-type: none"> ○ コースター作りに取り組む。 ○ コースターのデザインと目標枚数をチームで相談して決める。 ● 生徒たちからの相談をうけて、「喜ばれる製品」を意識できるようにアドバイスする。 ● 困った時、教員に報告、連絡、相談をするように促す。 ※ 目標枚数を目標して、効率よく取り組めたか。【思・判・表】 ※ 「喜ばれる製品」を意識して、取り組めたか。【主】 	
	片づけをする。掃除をする。	<ul style="list-style-type: none"> ● 片付けの確認をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ちぎった紙を干す。 ● 紙をばらして置くように促す。 ○ 掃除をする。 ● ごみ捨てを促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 使った道具の洗浄とタオル干しを行う。 ● 決まった保管場所にしまうように促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 作業場全体を見渡して、掃き掃除に取り組む。 ● 自分の場所だけでなく、他の場所も掃除をする 	

		す。	ように促す。
ま と め 20 分	終わりの ミーティ ングをす る。 ・ノート記 入 ・振り返 り ・挨拶	○作業ノートに本時間の自己評価、担当教員に総合評価をお願いする。 ●自らの学習を振り返り、学習過程や成果などをノートに記録するよう に促す。また、主体的な学びの過程を評価し、記入する。 ○本時間の目標やがんばったことについて、各チームで話し合い、代表 者を決めて発表する。 ●目標の達成度などを評価し、次回の活動内容、課題などを伝える。 ※振り返り等を通して、次の目標を持つことができたか【主】	

8 本時の評価

(1) 生徒の学習評価

A	<ul style="list-style-type: none"> 紙を見本と同じ位の大きさにちぎることができたか。 少しの促しで報告や必要なものの要求ができたか。 持続して紙ちぎりやビニールはがしに取り組むことができたか。 	【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】
B	<ul style="list-style-type: none"> 均一な厚さの紙を失敗せずに漉くことができたか。 自分から報告や質問ができたか。 目標枚数をめざして、紙漉きに最後まで取り組むことができたか。 	【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】

(2) 教師の指導の評価（学習環境や教材教具等についての評価も含む）

ア 授業構成（指導手順、時間配当、指導形態）について

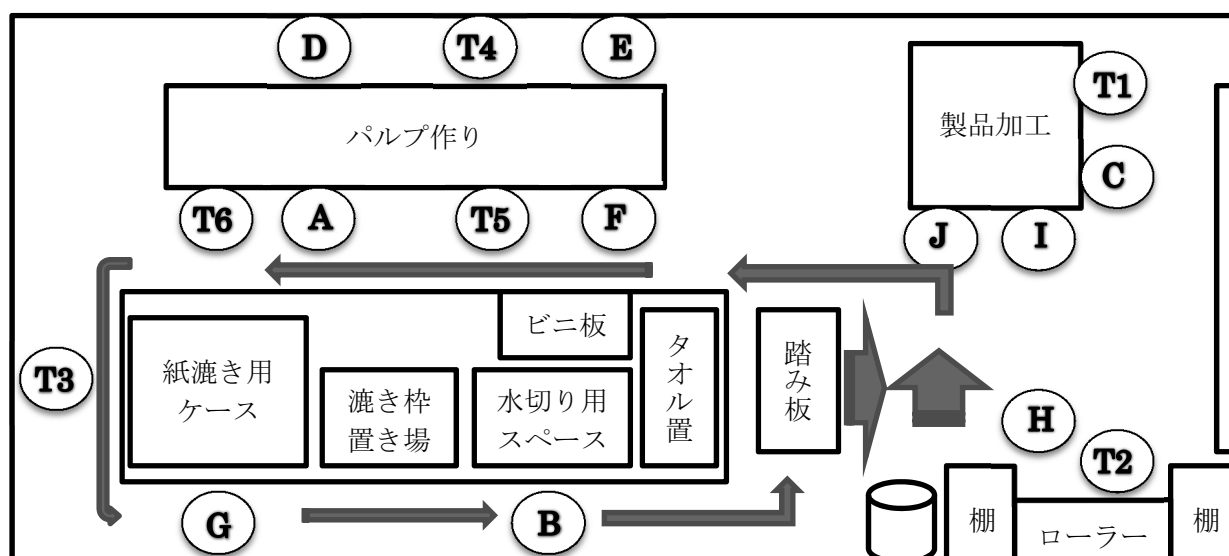
- 学習意欲を高めるために生徒の見通しが持てるような手立てを設定できたか。（主体的な学び）
- 生徒が自己の目標設定をすることで、前回よりも前向きに作業へ向き合う場面を設定できたか。（主体的な学び）
- 学習の振り返り等で、他者とのやりとりを通して生徒の考えが深まるような場面を設定できたか。（対話的な学び）

イ 教師による支援（環境設定、教材教具の工夫等）について

- 生徒は作業を進めるに当たって、教材を十分に活用できていたか。（主体的な学び）
- 仲間と協働して取り組めるように生徒の実態に応じて、作業工程を設定できたか。（対話的な学び）
- 生徒にとって今日の作業学習が文化祭での活動に繋がる内容で学習計画を設定できたか。（深い学び）

9 備考（配置図、準備物、教材、参考資料等）

【教室内環境図（紙工芸室）】



第4節 自立活動の指導実践事例

事例① 小学部2年生

1 実態把握の流れ (流れ図)

学校・学部・学年	小学部・第2学年
障害の種類・程度や状態等	知的障害のある自閉症。言語による簡単な指示理解はできるが、気持ちを伝えることに困難が見られる。順番を待つ等、集団での活動に苦手さがある。
事例の概要	コミュニケーション能力の向上と、他者との基礎的な関わり方の獲得を目指した指導。

① 障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について情報収集
<ul style="list-style-type: none"> 一部支援が必要なものもあるが、基本的な生活習慣はほぼ自立している。 言語による簡単な指示理解はできるが、写真や図など視覚的な支援があると、より情報を理解しやすい。 初めての場所や騒がしい場所が苦手で、その場から離れてしまう。 水遊びや体を動かすことが好きで、何時間も一人で遊んでいることが多い。 人と関わることは好きだが、まだ一方的な関わりになってしまう。 発音が不明瞭なこともあり、身振りなどでコミュニケーションをとろうとするが、うまく伝わらないことが多い。 気持ちが落ち着かない時には、大きな声を出したり、自らを傷つけたりして不快感を表すことがある。

②-1 収集した情報(①)を自立活動の区分に即して整理する段階					
健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
<ul style="list-style-type: none"> 偏食がある。食事はスプーンやフォークで食べることができる。 排尿は自立しているが、排便はふき取りなど一部支援が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思い通りにならないと、大声を出し、人を叩いたり、寝転がって頭を床に打ち付けたりする。 初めての場所には抵抗があり、泣き叫ぶことがある。 騒がしい場所は苦手、耳をふさぐことがある。 好きな活動をやめる時など、気持ちの切り替えが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達と追いかけて遊ぶことができる。(やや一方的) 順番を待つことが苦手。 教員がそばにいて、活動内容を視覚的に伝えたり、手をつないだりするなど、周りの支援があれば、集団の中に入れる時がある。 親しい友達や教員となら、手をつなぐことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 危険認知が低く、自動車等に注意することが難しい。 自分の名前などいくつかの平仮名は分かっている。 身近な具体物と絵のマッチングはできるが、文字とのマッチングはまだ難しい。 1～5までの数字と具体物の数のマッチングはできる。 なぞり書きの練習をしている。 シール貼りは得意である。 やることが分かると、集中して課題に取り組める。 急な予定変更があると、泣き叫んでしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> 衣服の着脱はほぼ一人でできるが、ボタンやチャックなどの一部で支援が必要。 簡単な身体模倣ができる。 体操や走ることなど、身体を動かすことが好きである。 高いところや狭いところが好きで、一人で登ってしまうことがあるが、一人で降りてこられない時もある。 椅子に座っている時、立っている時等、姿勢がくずれやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> 簡単な指示におうじて、動くことができる。 発音は不明瞭ではあるが「せんせい」、「いやだ」などいくつかの言葉の言うことができる。 要求を伝えるため、身体を使って表現しようとするが、うまく伝わらず、怒り出してしまうことがある。

②-2 収集した情報(①)を学習上又は生活上の困難、これまでの学習の習得状況の視点から整理する段階
<ul style="list-style-type: none"> ・うまく気持ちが伝わらないと、イライラして人を叩いたり、頭を床に打ちついたりしてしまう。(コ) ・好きなことを途中で止められたり、自分のペースでできなかつたりすると、大声で叫んでしまう。(心) ・いつもと違うことが起こると、不安になって大声で泣いてしまう。(心) ・一方的ではあるが、他者への関わりを求めることがある。(人) ・指さしなど身体を使って、要求を伝えようとする。(コ) ・見通しをもてると、活動にのりやすい。(環) ・自分の好きな遊びや集中できる課題がある。(心、身) ・言葉だけでなく、視覚的にも提示することで、指示が通りやすくなる。(環)

※各項目の末尾の()は、②-1における自立活動の区分を示している。

②-3 収集した情報(①)を〇〇年後の姿の観点から整理する段階
<ul style="list-style-type: none"> ・カードや身振り等を使って、自分の気持ちを相手に伝えられるようになる。(心、人、コ) ・集団活動の基本的なルールを理解し、他者に合わせる等、人との関わりを広げられるようになる。(人、環)

③ ①をもとに②-1、②-2、②-3で整理した情報から課題を抽出する段階
<ul style="list-style-type: none"> ・困った時など、他者への上手な気持ちの伝え方を獲得しておらず、他害や自傷などで表現してしまう。(心、人、環) ・見通しがもてないと、不安になってしまう。(心、環) ・他者に合わせることが苦手で、自分のペースで活動しようとする。(人、環)

④ ③で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導き出す段階
<ul style="list-style-type: none"> ・獲得している言葉が少なく、伝え方が身に付いていないことや発音が不明瞭なため、自分の気持ちや思いがうまく伝わらず、怒ったり泣いたりしてしまう。そのため、言葉だけでなく、絵カード等を活用しながら、適切なコミュニケーションのとり方を学習していく。 ・見通しがもてないような不慣れた活動場面や、苦手な刺激等により不安になることがあるため、環境調整を行い、本児の力を十分に発揮できるようにしていく。 ・「待つ」、「合わせる」などの経験が少ないことや、見通しのもちづらさから、一方的な関わりが多く、相手に合わせたり、順番を待ったりすることが苦手である。そのため、本児の興味・関心のあるものを通して、簡単なルールを理解するような活動を取り入れることで、他者との基礎的な関わり方を学習していく。

課題同士の関係を整理する中で今指導すべき指導目標として	⑤ ④に基づき設定した指導目標を示す段階
	<ul style="list-style-type: none"> ①カード等を使いながら、自分の気持ちを伝えられるようになる。◎ ②順番を待つ等の集団活動での基本的なルールを理解し、他者のペースに合わせて活動できることを増やす。○

項目の選定・指導内容の設定

区分	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
(1)	生活のリズムや生活習慣の形成に関する事。	◎情緒の安定に関する事。 ①	◎他者とのかかわりの基礎に関する事。 ①②	◎保有する感覚の活用に関する事。 ①	姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事。	◎○コミュニケーションの基礎的能力に関する事。 ①②
(2)	病気の状態の理解と生活管理に関する事。	◎○状況の理解と変化への対応に関する事。 ①②	○他者の意図や感情の理解に関する事。 ②	感覚や認知の特性についての理解と対応に関する事。	姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関する事。	◎言語の受容と表出に関する事。 ①
(3)	身体各部の状態の理解と養護に関する事。	◎○障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事。 ①②	◎○自己の理解と行動の調整に関する事。 ①②	◎感覚の補助及び代行手段の活用に関する事。 ①	◎日常生活に必要な基本動作に関する事。 ①	◎言語の形成と活用に関する事。 ①
(4)	障害の特性の理解と生活環境の調整に関する事。		○集団への参加の基礎に関する事。 ②	◎○感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関する事。 ①②	身体の移動能力に関する事。	◎○コミュニケーション手段の選択と活用に関する事。 ①②
(5)	健康状態の維持・改善に関する事。			認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事。	作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事。	◎○状況に応じたコミュニケーションに関する事。 ①②
Key words		不安① 達成感①②	感情のコントロール① 他者に合わせる②	こだわり① 見通し①② 切り替え①② 刺激の軽減②	手指の操作性① 援助要請①	伝え方(カード等)① 集団活動の基礎②

【項目と項目を関連付ける際のポイント】

- 発達段階や障害の特性に合わせて、活用できる力を見極めて指導する。
- 本児が保有する感覚や興味関心を生かしつつ、他者に意識を向けるための工夫を行う。

指導内容	<ul style="list-style-type: none"> ・カードや身振りを使って要求を伝える等、やり取りの練習をする。 ・スケジュールを提示し、見通しをもって課題に取り組めるようにする。 ・タイマーを使って、切り替えのタイミングを伝える。 ・部品の欠損課題に取り組むことで、足りないものを伝えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームなどを通して、順番に待つことの練習をする。 ・指示を聞いてから、課題に取り組む練習をする。
指導場面	<ul style="list-style-type: none"> ・自立活動の時間における指導 ・国語・算数・特別活動・日常生活の指導 ・休み時間 	<ul style="list-style-type: none"> ・自立活動の時間における指導 ・国語・算数・体育・特別活動 ・日常生活の指導・生活単元学習・休み時間

2 本指導案

小学部 自立活動（時間における指導） 指導案

日 時 令和〇〇年〇〇月〇〇日（〇曜日）
第〇時 〇〇：〇〇～〇〇：〇〇
場 所 小学部2年1組
指導者 〇〇 〇〇（T1） 〇〇 〇〇（T2）

1 主題名 「コミュニケーション能力の向上と他者との基礎的な関わりを育む学習」

2 主題設定の理由

(1) 児童の実態

児童生徒に関する情報やできないことを羅列するのではなく、児童生徒の全体像が分かるように論じる。その際、障害の状態や学習の状況についてもふれるようにする。

全体像・障害の状態・学習の状況

本児は小学部2年生で、自閉スペクトラム症の診断を受けている。教師からの簡単な言語指示が理解でき、行動に移すことができる。言葉だけの指示よりも、写真や絵を用いながら指示を出した方が、より伝わりやすい。発音が不明瞭なところはあるが「せんせい」などいくつかの単語を使ったり、身振りを使ったりしながら、欲しいものや要求を伝えようとする。一方、自分の思い通りにいかなかったり、要求がうまく伝わらなかったりした時は、大きな声を出し、近くにいる友達を叩く、床に寝転がり頭を打ち付けるなどして不快感をあらわにすることがある。難しいことやうまくできない時等は、大きな声を上げて怒り出すことが多く、「手伝って」などの援助要請を自分から出すことは難しい。人と関わることは好きで、友達の肩を叩いては、走って逃げるなど追いかけて楽しむ様子が見られる。しかし、一方的な関わりになってしまうことが多い。順番を待っている間にその場を離れてしまうことがあるが、本児のそばで視覚的に活動内容を伝えたり、手をつないだりする等の教師の支援があれば、集団に入ることができる。

初めての場所や初めてのことに對しては、抵抗があり、不安で泣き出してしまうことがある。騒がしい所や人の泣き声は苦手で、耳をふさぎながらその場から離れようとする。好きなおもちゃや水遊びなど好きな遊びは何時間でも遊んでいられるが、なかなか終わりにすることができず、次の課題への切り替えが難しい。

学習面に関しては、自分の名前などは見て分かり、いくつかの平仮名を読むことができる。1～5の数は数えることができ、数と量のマッチングもできる。1対1対応もできており、給食当番の係として、牛乳やストローを1つずつ配ることができる。シール貼りは好きで、課題の量を調整すれば、離席することなく、最後まで集中して取り組むことができる。課題の途中で姿勢がくずれることがある。

将来像

適切にコミュニケーションをとる方法や、人に合わせることなどは、社会の中で生きていくのに必要な力である。昨年度からの学習を通し、落ち着いて課題に取り組むことができているので、今年度は他者に目を向け、他者と伝え合う力を身につけていくことで、人と関わる楽しさを味わい、人との関わりを広げていきたいと考える。

(2) 主題観

実態を踏まえ、なぜ、今この学習を身につけるべきなのかを明らかにする。その際他の学習との関連等についても考慮する。

選定した学習内容

本校小学部の自立活動の時間における指導は週4時間である。児童2名に対し教員1名の指導体制で学習している。決められた課題については、量の調整などを行えば最後まで集中して取り組むことができている。しかし、自分から要求を伝えることは難しく、うまく伝えられないことでイライラし、怒り出してしまっていることがある。その理由として、発音が不明瞭なことや獲得している言葉が少ないことから、相手に意思が伝わりにくいことが考えられる。また、どのように対処すればよいのか分からず、今まで「大声で怒る」ことで対処してきてしまったことも、影響していると考えられる。言葉だけでなく、カードなど他の代替手段を使いながら伝える練習をすることで、イライラも減り、叩くなどの行動が減ってくるのではないかと。「うまく伝わった」という経験が増えれば、更に伝えようという意識が高まり、コミュニケーションを楽しめるようになっていくと考える。

また、関わりが一方的で他者のペースに合わせて活動する場面はまだ少なく、集団活動に最後まで参加できないことも多い。その理由としては、人の気持ちを考えたり人に合わせたりすることが苦手である上、「待つ」、「合わせる」などの経験が少ないことが考えられる。「次に何をするのか」、「いつまで待てばよいのか」等見通しをもちづらいことも要因の1つとしてあげられる。見本や指示通りにシールを貼る等、簡単な指示に従う課題や本児が好きな遊びを通し、「交代する」「順番を待つ」等の学習をすることで、他者に合わせることを少しずつ学んでいけると考える。

関連

授業の中で使用した絵カードは、他の生活場面場や国語、算数などの学習場面でも、同じものを使ってやり取りを行うようにする。また、「交代する」、「順番を待つ」活動は、体育や音楽などの学習場面でも意図的に取り入れるようにし、定着を図るようにする。

主題に向けて実態と障害特性等を踏まえた展開や教材、発問等の工夫や教員間の連携について論じる。

(3) 指導観

指導方針

全ての課題を通し、本児が達成感や満足感を得ることができ「もっとやりたい」という気持ちを高められるような指導内容を設定することを重視する。落ち着いて学習に臨めるようにするため、必要に応じてついでにやイヤーマフ等を使って、余分な刺激の軽減を図るようにし、本児の力を発揮できるような環境を整える。見通しをもって学習に取り組めるようにするため、授業の最初に1時間の学習内容のスケジュールを提示する。スケジュールの横に評価欄を設け、花丸やシールなど目に見える評価をすることで、本児のやる気も喚起する。

実態に基づいた教材の工夫

コミュニケーション能力の向上については、発音が不明瞭なところがあるので、最初に口周りの筋肉を動かす体操をした後、発音練習を行うようにする。まずは身近な物の名前から練習することで、本児の興味をひき、単語を増やしていくようにする。言葉だけでなく、カードや身振りなどの補助的な手段を使って相手に伝えるようにしていく。要求や援助要請など初めは伝えたものが確実に返ってくるような課題を設定し、伝わる喜びや自信につなげるようにしていく。予め課題の完成（パズルなど）に必要な部品を不足したまま本児に渡しておき、必要な部品をカードでのやり取りで教員から受け取るといった課題も行う（部品欠損課題）。課題の最後にはご褒美課題を設け、1つ1つの課題が最後の楽しみにつながることを理解するとともに、2つ以上の選択肢を設け、主体的に本児が選ぶようにする。好きな課題のときはタイマーを使って、終わりを明確に示すようにすることで、切り替える練習にもつなげていく。

他者との基礎的な関わりでの学習については、簡単なゲームやバランスボール等、本児が興味・関心をもちやすいものを使って、順番や交代などの基本的なルールを身につけていくようにする。順番が守れたときや、上手に交代ができたときには、ハイタッチをする等して教師が喜びを共有することで、人と関わる楽しさを味わうようにする。教師の指示に応じて進める課題では、「つまむ」、「ひねる」などの動きが伴う教材を活用することで、手指の操作性も同時に高めるようにする。

3 目標

- ・カード等を活用して、自分の気持ちを相手に伝えることができる。
- ・集団での活動の基本的なルール（交代する、順番を待つ等）を知り、他者に合わせて活動できることを増やす。

4 指導計画

学期	指導内容
1	<ul style="list-style-type: none"> ・乗り物など身近な単語を使って発音練習する。 ・手指を使う教材を使い、自分でできる課題に取り組む。 ・見本を見て、見本と同じものを作る課題に取り組む。 ・好きな課題を通し、カードを使って、「もっとやりたい」を伝える。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・食べ物など身近な単語を使って発音練習する。 ・カードを使って「手伝って」や「ください」を伝える。（部品の欠損課題など） ・1回から2回程度、教師の指示に合わせて作業する課題を行う。 ・教師とのゲームを通し、順番を受け入れる。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な単語を使って発音練習をするとともに、実態に合わせて動作を表す単語を取り入れる。 ・簡単な構文を使って「○○ください」を伝える。（部品の欠損課題など） ・教師の指示に従って作業する課題を行う。 ・複数の友達とのゲームを通し、交代や順番を受け入れる。

5 本時の構成

(1) 本時の目標

- ・カードを使って、要求や援助要請を伝えることができる。
- ・自分の順番を待ってゲームをしたり、簡単な指示に従って課題を進めたりすることができる。

(2) 展開

	学習活動	指導上の留意点（指導の手立て・評価の観点）	備考
3分	・課題の入った引き出し、ついたて等準備をする。	○自分で学習環境を整えることで、学習に向かう意識を高めるようにする。 ○耳から入る情報が多すぎて落ち着かないときは、イヤーマフを使用できるように近くに置いておく。 ●学習に必要な道具を準備することができたか。	課題の入った引き出しついたてイヤーマフ
	・あいさつをする。	○姿勢を正し、教師と一緒に声を出してあいさつすることを通して、授業の始まりを意識できるようにする。 ○視線が合わない時は、教師の顔に注目するように声をかける。 ●姿勢を正し、教員の顔を見て、大きな声であいさつできたか。	
	・スケジュールを知る。	○活動の見通しがもてるよう、スケジュール表を確認する。 ○読めない文字や文字だけで理解できないことがあるので、スケジュール表には、課題の写真やイラストを文字と一緒に載せるようにする。 ○全ての課題が終わったら、最後にご褒美課題があることを確認する。 ●教師の後に続いて、指さししながらスケジュールを読み上げることができたか。	スケジュール表
30分	・口の体操をする。 ～発音練習を行う (口元の筋肉を動かし、発語を促す課題)	○教師の口元に注目するよう声をかけ、ゆっくりと口を動かすようにする。 ●教師の口元を見ながら、ゆっくりと大きく口を動かすことができたか。 ○発音練習では、最初に教員が発声するのをよく聞くように、身振りと言葉で伝える。 ●教師の発声をよく聞いてから、発声できたか。	食べ物カード
	・ひも通しの課題に取り組む。 (部品欠損課題)	○「ください」カードを机の端にマジックテープで貼っておき、いつでも手に取れる状態にしておく。 ○見本カードを見せ、見本と同じようにビーズをひもに通すよう指示をする。 ●見本と同じものを作ることができたか。 ○意図的に不足した数のビーズを用意しておき、足りないビーズは「ください」カードを渡すことでもらうようにする。 ○どうしてもよいか分からない様子のときは、机上の「ください」カードを指さし、教師に渡すように伝える。 ○カードを使う時は必ずカードの文字を声に出して読むように声かけしたり、一緒に読んだりする。 ●足りない物に気づき、「ください」カードを読み上げながら、教師に手渡すことができたか。	「ください」カード 色ビーズ ひも 見本カード
	・黒ひげ危機一髪ゲームを行う。 (交代や順番を理解する課題)	○教師と交互に、おもちゃの剣をさすように指示する。 ○おもちゃの剣を注目しやすいように、箱に入れて渡す。一度に何本も剣を取ってしまう時は、箱に剣を1本ずつ入れておくようにする。 ●教師と交互に、1本ずつ剣をさすことができたか。	黒ひげゲーム箱
	・シール貼りの課題に取り組む。 (指示に従う課題)	○はじめは、シールを貼る場所とシールの色を、教師が言葉で指示する。伝わりにくい場合は、色の絵カードを見せながら、貼る場所を指で指し示すようにする。 ○指示を聞いてシールを数枚貼った後は、見本を見ながら同じようにシールを貼るように声かけする。 ●指示通りにシールを貼ることができたか。	色シール シール台紙 色カード シール見本
	・パズルの課題に取り組む。 (部品欠損課題)	○本児が好きなキャラクターのパズルを用意する。 ○予め、1～2枚のピースを教師が抜いておき、足りないピースに気づいた時に、「ください」カードを使って、ピースをもらうようにする。 ○どうしてもよいか分からない様子の時は、机上の「ください」カードを指さし、教師に渡すように手を添えたり、声かけしたりする。	パズル

		<p>○カードを使う時は必ずカードを声に出して読むように声かけする。</p> <p>●足りないピースに気づき、「ください」カードを読み上げながら、教師に手渡すことができたか。</p>	
	<p>・バランスボールの課題に取り組む。 (交代を理解する課題)</p>	<p>○10回ずつ教師と交互に跳ぶようにする。10まで数えるときは本児と一緒に教師も数えるようにする。</p> <p>○帽子やワッペン等を用意し、それを身につけることで、自分の順番がきたことを分かりやすいようにしておく。</p> <p>○終わりが分かりやすいように、10は大きな声で数えるようにし、同時に両手でハイタッチをする。</p> <p>●10回で止めることができたか。</p> <p>○合計で6回行うようにするが、回数が分かるようにホワイトボードに1回ごとにマグネットを貼り付けるようにする。</p> <p>●交代しながら、バランスボールを跳ぶことができたか。</p> <p>○最後に深呼吸をし、呼吸を整えるようにする。</p>	<p>バランスボール 帽子又は、ワッペン等 ホワイトボード マグネット</p>
5分	<p>・ご褒美課題を選択する。 (くすぐり遊び、光るおもちゃ等)</p>	<p>○スケジュール表の評価欄に花丸が6個たまったことを確認し、1つ選ぶように2つのご褒美課題を提示する。</p> <p>●複数の課題から1つ選ぶことができたか。</p> <p>○残り時間をタイムタイマーで、視覚的に示すようにする。</p> <p>●タイマーで終わりにすることができたか。</p> <p>○くすぐり遊びのときは、意図的に途中で止める等して「もっとやって」という表現を引き出すようなやり取りを行うようにする。</p>	<p>タイムタイマー 課題カード おもちゃ</p>
2分	<p>・あいさつをする。</p>	<p>○姿勢を正し、教師と一緒に声を出してあいさつすることを通して、授業の終わりを意識できるようにする。</p> <p>○視線が合わない時は、教師の顔に注目するように声をかける。</p> <p>●姿勢を正し、教師の顔を見て、大きな声であいさつできたか。</p>	
	<p>・片付けを行う。</p>	<p>○使った課題やついたてを元の場所に片づけるよう声かけする。</p> <p>●使った物を、元の場所に戻すことができたか。</p>	
	<p>その他 ※課題が終わったときは報告をする ※怒ったときの対処など</p>	<p>○報告を言い忘れているときは、「でき…」等「できました」の語頭を伝える。</p> <p>●課題終了ごとに報告することができたか。</p> <p>○怒ったり泣いたりしたときは、落ち着くまで待ち、その後改めて課題に取り組むよう勧める。</p> <p>○指示を受け入れるのが難しいときは、本人が気持ちを切り替えるのを待つようにする。</p>	

6 本時の評価

(1) 児童の評価

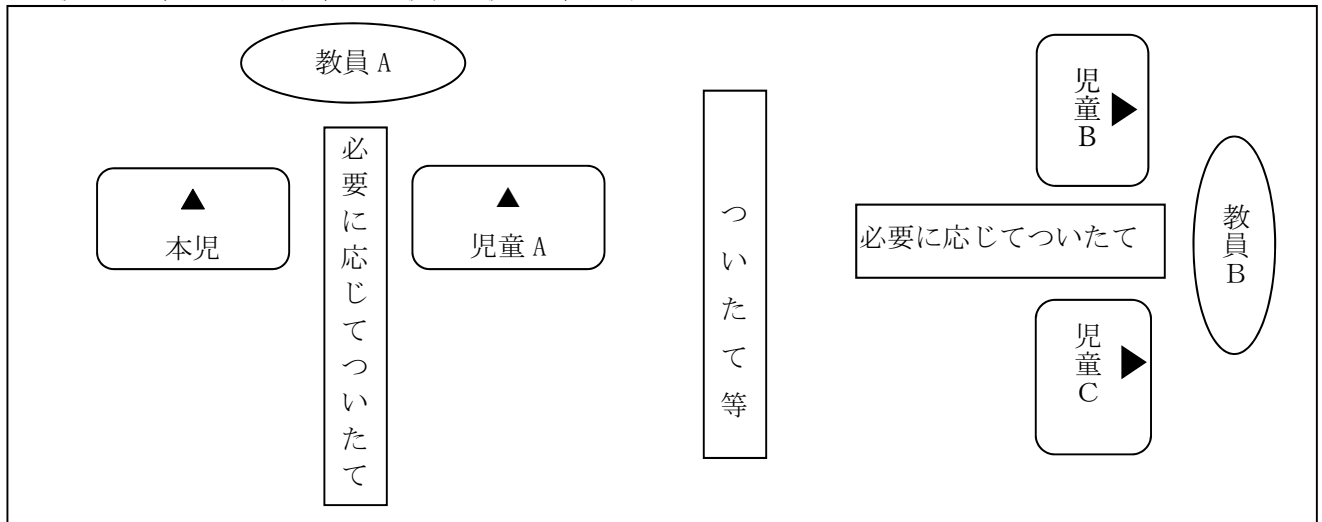
- ・カードを使って、要求や援助要請を伝えることができたか。
- ・自分の順番を待ってゲームをしたり、簡単な指示に従って課題を進めたりすることができたか。

(2) 教師の評価

- ・分かりやすい指示の仕方、環境の設定であったか。
- ・見通しをもちやすいような工夫や、視覚的教材の活用、感覚過敏（聴覚等）への対応等、本児の障害特性に配慮していたか。
- ・本児の実態からみて、目標設定は妥当であったか。
- ・目標を達成するために有効な内容であったか。

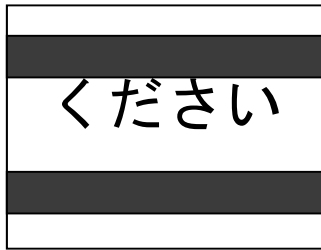
7 備考

- ・ 教室内配置図 座席配置図 教材・教具配置図等

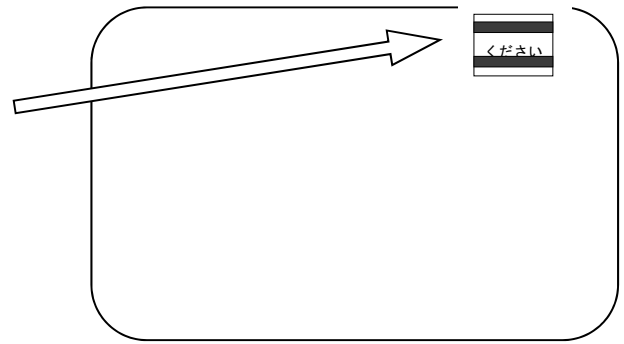


- ・ 課題の入った引き出し（カラーボックス）は児童の机の左側に設置する

・教材「ください」カード



このカードを机の右上
(利き手側) にマジック
テープで貼っておく。



児童用机

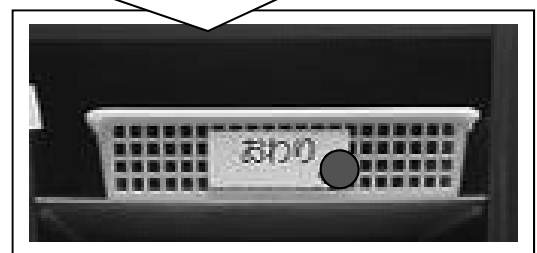
・スケジュール (A5判のプリント)

○ がち ○ にち

1	くち・ことば		
2	びーず		
3	げーむ		
4	しーる		
5	ぱずる		
6	ぼーる		
7	おたのしみ		

ここに花丸やシールなどで評
価をしていく。

・課題の入った引き出し (カラーボックス)



課題が終わったらカゴの向きを変えて、ボックス
にしまうことで、終わりが分かりやすくなる。
平仮名の獲得が充分でないため、「おわり」の文
字と絵を見て、課題終了が理解できるよう、「お
わり」の文字の横に好きなキャラクターなどを描
いておく。

3 自立活動の年間指導計画（参考）

小学部	2年生	氏名	作成日				令和	年	月	日
長期目標		①カードや身振り等を使って、自分の気持ちを相手に伝えられるようになる。 ②集団活動の基本的なルールを理解し、他者に合わせる等、人との関わりを広げられるようになる。								
今年度の目標		①カード等を活用して、自分の気持ちを少しずつ相手に伝えられるようになる。 ②集団での活動の基本的なルールを知り、他者に合わせて活動できることを増やす。								

月	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	他の教科・領域との関連性 (指導内容と指導場面)
予定授業時数	8	16	16	9	12	16	16	9	11	14	10	
主題名・学習内容	<p>身近な単語を使っての発音練習</p> <ul style="list-style-type: none"> 乗り物の名前 動物の名前 物の名前 人々の名前 動作を表す単語 食べ物の名前 文具、日用品の名前 色の名前 気持ちを表す単語 <p>手指の操作性を高める学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ペグさし キャップしめ ひも通し ボタンかけ クリップどめ プットイン ペンの組み立て シール貼り チャックしめ ひも結び等 <p>※見本と同じものを作る等、指示に従うことの基礎的な学習も随時取り入れるようにする。</p> <p>カードで要求や援助要請などを伝え、やり取りを行う学習</p> <ul style="list-style-type: none"> 要求を伝える 援助要請を伝える 二語文で伝える <p>集団活動の基礎的なルールを身に付ける学習</p> <ul style="list-style-type: none"> 順番 交代 他者に合わせる 等 											
コミュニケーション能力の向上と他者との基礎的な関わりを育む学習	<p>物の名前や気持ちを表す言葉の学習をし、語彙を増やす。(国語)</p> <p>形を捉えることや、数や量の概念を学習する。(算数)</p> <p>自立活動の時間で使用しているものと同じカードを使用して、やり取りを行う。</p> <p>スケジュール等を活用し、見通しをもって学習する。(教育活動全体を通じての指導)</p> <p>意図的に順番を守る等の活動を設定する。</p> <p>友だちと一緒に物を運ぶなどの学習を取り入れる。(体育、生活単元学習等)</p>											

評価

1 学期	2 学期	3 学期
乗り物など本児の好きなカードを使って学習すること で、苦手な発音練習も意欲的に取り組めた。手指を使 う学習では、見本をよく見ながら、見本と同じもの を作ることができた。初めは教師を叩くなどして要求を 伝えていたが、学期の後半あたりからは少しずつカー ドを活用して、要求を伝えられるようになってきた。		

事例② 集団において個に忠じた指導

1 生徒の実態・指導目標・指導内容

生徒	学習上又は生活上の困難の把握、これまでの学習の習得状況	自立活動の指導目標	必要な項目の選定	具体的な指導内容
A	<p>・苦手な場面やはじめでの場面の緊張感が強く、気持ちが不安定になると感情をコントロールできなくなる。知的な好奇心は高く、活動に真面目に取り組むことができる。気持ちが安定している時は、人と関わることや会話もできるが、自分のペースを押しつける傾向がある。</p> <p><自己理解と自己調整の弱さ></p>	<p>○気持ちが不安定になったときの対処の仕方を身に付けることができるようになる。</p> <p>○一緒に活動する人のペースに合わせることでできるようになる。</p>	<p>心理的な安定… (2) (3) 人間関係の形成… (3) (4) 環境の把握… (4) コミュニケーション… (5)</p>	<p>□自分の気持ちが不安定になる前の支援の求め方、エスケープのタイミング</p> <p>□協力・協働して活動するときのペースの合わせ方</p>
B	<p>・人と関わることは嫌いだはないが、音声言語による意思伝達に抵抗感があるため、人とのコミュニケーションが充分とれない。気持ちは安定しており、生活年齢相応の理解力や興味関心がある。細かい作業が得意である。真面目だが、積極的に行動することはほとんどない。</p> <p><自己肯定感の低さ・話すことに対する抵抗感></p>	<p>○意思表示の方法を身に付けることができるようにする。</p> <p>○何かを達成することで、「できた」という達成感を味わい、自分に自信をもてるようにする。</p>	<p>心理的な安定… (3) 人間関係の形成… (3) コミュニケーション… (4) (5)</p>	<p>□自分でできる意思表示の方法の選択と実行</p> <p>□目標達成に向けて、自分の役割をしっかりと果たすこと</p>
C	<p>・周りの状況や人の思惑に敏感で、自分に自信をもてないため、人との関わり方に不器用さがあり、関わる人の範囲も狭い。年齢相当の理解力があり、運動も作業もよくでき、細かいことにもよく気付くが、気持ちに疎かにされ、力を充分発揮できない。</p> <p><自己肯定感の低さ・人に対する不信感></p>	<p>○安心して関わることでできる人を増やすことができるようになる。</p> <p>○自分の力を発揮し、認められることで、自信をもつことができようになるようにする。</p>	<p>心理的な安定… (1) (3) 人間関係の形成… (1) (3) コミュニケーション… (5)</p>	<p>□人からのたはらきかけを受けられる、支援を求めめる経験をする</p> <p>□グループの中で、自分の力を発揮し最後までやりきること</p>
D	<p>・身近な友だちや教員とは関わることはできるが、人との関わり方で自信がもてないため、関わる人の範囲が狭い。活動内容が明確なものや作業学習、運動では力を発揮することができているが、周りから認められる機会が少ないため、自己肯定感が低い。</p> <p><人との関わりにおける経験不足・自己肯定感の低さ></p>	<p>○関わる人を広げることができるようになる。</p> <p>○自分の役割を果たし、周りから認められる経験をとおして自己肯定感を育てる。</p>	<p>心理的な安定… (2) (3) 人間関係の形成… (3) コミュニケーション… (5)</p>	<p>□身近な人以外と関わる経験、関わり方、気持ちの整え方</p> <p>□周りの評価や支援を受けながら、自分の役割を果たすこと</p>
E	<p>・聴覚からの情報のとりこみが弱く、何をしたらよいか分からなくなることがある。また、相手のことばの意味が理解できなくても笑顔でいるため、「分からない」状況を周りに理解されにくい。何事にも積極的に取り組み、社交的である。</p> <p><聴覚からの情報のとりこみの弱さ・自己理解の低さ></p>	<p>○「わからない」状況を判断し、周りの人に相談したり、支援を求めたりできるようにする。</p> <p>○活動に見通しをもち、自分の役割を理解して取り組めるようになる。</p>	<p>心理的な安定… (3) 人間関係の形成… (3) 環境の把握… (2) (4) コミュニケーション… (5)</p>	<p>□「わからない」という状況の理解と支援の求め方</p> <p>□友だちや教員に相談しながら、自分の役割を遂行すること</p>
F	<p>・何事にも真面目に取り組むが、新しい取組や、初対面の人に対して不安や緊張が強いため、積極的になれないところがある。集団の中でも真面目に取り組むが、周りの友だちに対して遠慮がちになってしまふ。優しく面倒見のよい一面もある。</p> <p><新しい活動の経験や様々な人との関わりでの少なさ></p>	<p>○新しいことに挑戦したり、関わる人を広げたりできるようにする。</p> <p>○何かを達成することで、「できた」という達成感を味わい、自分に自信をもてるようにする。</p>	<p>心理的な安定… (2) (3) 人間関係の形成… (3) 環境の把握… (4) コミュニケーション… (5)</p>	<p>□新しい活動や初対面の人と接する時の不安や緊張を和らげるための方法</p> <p>□最終目標を意識し、一つ一つの活動の目標を達成しながら、最後までやりきること</p>

2 本指導演

高等部2学年 Fグループ 自立活動 学習指導演

日 時 令和〇〇年〇〇月〇〇日（〇曜日）

第〇時 〇〇：〇〇～〇〇：〇〇

場 所 高等部2年〇組教室

指導者 〇〇 〇〇 (T1) 〇〇 〇〇 (T2)

1 主題名 「自分の役割を果たそう（協働して成し遂げよう）」

2 主題設定の理由

(1) 生徒の実態

生徒に関する情報やできないことを羅列するのではなく、生徒の全体像が分かるように論じる。その際、障害の状態や学習の状況についても触れるようにする。

本学年は、一人一人の実態・指導目標等から学習集団を編成し、〇曜日の第〇校時に自立活動の時間における指導を行っている。

本グループは、6人の生徒（男子5人・女子1人）で構成されており、高機能広汎性発達障害の生徒1人、場面緘黙の生徒1人、学習障害の生徒1人、ソトス症候群の生徒1人、他の生徒は軽度の知的障害である。身近生活の処理は自立しており、取り組むべきことが明確であれば、最後まで取り組める。また、生活年齢相当の理解力や興味関心をもつ生徒もいる。

このグループの生徒は共通して「心理的な安定」「人間関係の形成」「コミュニケーション」の面で困難を抱えている。日常的に関わっている友だちや大人とは良好な関係を築けたり、会話を楽しんだりすることができるが、人間関係の幅は狭く、初対面の人や改まった場面では緊張が強くなってしまい、うまく関わるができなくなってしまう。

また、小中学校での経験から自己肯定感が育っておらず、物事に対して積極的になれなかったり、苦手なことから逃げようとしたりすることが多い。

卒業を1年数か月後に控え、そろそろ卒業後のことに真剣に向かいあわなければならない時期となった。このグループのほとんどの生徒が、取り組むべき内容が明確であれば、また得意なことであれば、真面目に行うよい面をもっている。卒業後の働く生活の中で、その本来もっている力を発揮できるように、人との関わりの不器用さやコミュニケーション不足が障害とならないよう指導・支援していきたい。

実態を踏まえ、なぜ今この学習内容を身につけるべきなのか明らかにする。

(2) 主題観

本グループの6人の生徒は、「人との関わりが苦手」「コミュニケーションが不器用」という困難を抱えている。これは、スキルの問題というよりは、背景にある自己肯定感の低さや経験不足による不安といった心理的抵抗感が大きな要因となっている。

そこで、指導を進めるに当たっては、その心理的抵抗感を和らげるために、次のことが必要だと考えた。

- ・ 苦手なことや不得意なことがあってもよいことを理解し、人に支援を求めるなど、その対処法を身に付けること
- ・ 得意だと思うこと、できそうだと思うことで力を発揮し、人に認められる経験を積み、自信を付けること
- ・ 同じ目的に向かって活動する中で、自分の役割を果たしたり、仲間と協力・協働したりすることで人間関係がつけられていくことを経験すること
- ・ 日常とは異なるシチュエーションでの人との関わり、コミュニケーションを経験すること

これらのことを実践するには、個々の課題にせまる指導・支援と並行して、小集団を組んだ学習が効果

全体像・学習上生活上の困難

将来像

選定した学習内容・指導体制

的であると考えた。

また、学習活動として「新聞づくり」という活動を設定した。その理由は、次のとおりである。

学習活動

- ・新聞づくりの活動では、取材をするに当たって、面識のない人とのコミュニケーションの場、又は改まった場におけるコミュニケーションが設定できること。
- ・新聞づくりという同じ目的に向かって、友だちと協力・協働する場を設定できること。
- ・役割を分担することによって、責任を果たす必要性が設定できること。
- ・6人の生徒全員が、簡単な文章表現が可能であること。
- ・パソコンに関心をもつ生徒が多いこと。
- ・成果が「新聞」という形になって残ること。

自分の得意分野を生かす、お互いにできないことを補いあう、そして成果が形になることで、一人一人が達成感を感じ、それが自信につながってほしいと考える。

主題に向けて、実態と障害特性等を踏まえた指導・支援の工夫について論じる。

(3) 指導観

指導方針

この学習をとおして、グループで活動する中では、新聞づくりのそれぞれの段階（取材準備・取材・編集・配付）における自分の役割を把握し、その責任を果たすことをねらっていきたい。また、話し合いや協力して活動する場面では、自分の意見を伝えるだけでなく相手の意見にも耳を傾けること、自分ひとりで進めようとするのではなく相手に合わせて活動することも必要であることを学ばせたい。

指導・支援の工夫

取材申し込みや取材（インタビュー）の場面では、状況や相手に応じたコミュニケーション（ことばづかい・態度・視線・声の大きさ・話す速度等）について、具体的にどのようにしたらよいか学習し、実際の場面での抵抗感を減らすようにする。そして、相手の話に目と耳を傾け、的確に聞こうとする態度を育てていきたい。

記事の内容や取材相手については、選択肢を用意しながらも、できるだけ生徒に自己選択・自己決定させていくようにする。そうすることで、責任をもつという気持ちを高めていきたい。

取材やパソコンを使用する記事の編集等、苦手だと感じたり、難しいと思ったりすることが出てくると思われる。支援するに当たっては、本グループの生徒の実態を考え、はじめから手立てを提示するのではなく、教師や友だちに支援を求めたり、調べたり、仲間で話し合ったりするよう促していく。そして、生徒から支援を求めてきた時は、丁寧に対応して、人との関わり、コミュニケーションに対する抵抗感を少しでも減らせるようにしていきたい。

指導方針

その中で、一人一人得意なこと、不得意なことがあり、苦手なことや不得意なことがあってもよいことを理解し、その対処の仕方を身に付けることで、心理的な安定を図れるということを学んでほしいと考える。

3 生徒の実態 ※別紙「生徒の実態・指導目標・指導内容」

4 目標

(1) 共通目標

○苦手なことや不得意なことがあってもよいことを理解し、その時の対処の仕方を身に付けることができる。

○最終目標を意識し、担当した役割を最後まで責任をもって取り組むことができる。

(2) 個人目標 ※別紙「生徒の実態・指導目標・指導内容」

5 指導計画 ※別紙「自立活動の年間指導計画」「新聞づくりスケジュール」

6 本時の構成

(1) 共通目標

- インタビュー（取材）の練習を振り返り、うまくできたこと、難しかったことを自己評価することができる。 【思考力、判断力、表現力等】
- インタビュー（取材）の本番に向けて、本番での役割分担、難しいと思われることの対処法をグループで考えることができる。 【学びに向かう力、人間性等】

(2) 個人目標

生徒	目 標
A	<ul style="list-style-type: none"> ○自己評価表に基づき、インタビュー練習の自己評価を行い、うまくできたことを把握することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ○円滑にインタビューするための手立てについての話し合いで、友だちの意見を聞いてから、自分の意見を述べるすることができる。 【思考力、判断力、表現力等】
B	<ul style="list-style-type: none"> ○インタビューの練習における自己評価を適切に行い、自分にできること、工夫すればできること、難しいことをまとめることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ○グループ内の話し合いでは、他者の評価を参考にし、本番に向けての改善点を自分なりの方法で伝えることができる。 【学びに向かう力、人間性等】
C	<ul style="list-style-type: none"> ○他者評価を参考にしながら、インタビューの練習における自己評価を適切に行うことができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ○他者の評価も受けとめ、グループ全体の評価を適切に行い、本番に向けて改善した方がよい点を挙げるすることができる。 【学びに向かう力、人間性等】
D	<ul style="list-style-type: none"> ○他者評価を参考にしながら、インタビュー練習の自己評価を行い、うまくできたこと、難しかったこと、難しかったことの対策をまとめることができる。 【思考力・判断力・表現力】 ○友だち・教師の評価や意見を参考にして、本番でやってみようと思う役割の具体的な準備や工夫についてまとめることができる。 【思考力、判断力、表現力等】
E	<ul style="list-style-type: none"> ○友だちや教師に相談しながら、インタビュー練習でうまくできたこと、難しかったことをまとめることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ○話し合いでの友だちの意見を参考にして、本番でやってみようと思う役割の具体的な準備や工夫についてまとめることができる。 【思考力、判断力、表現力等】
F	<ul style="list-style-type: none"> ○他者評価を参考にしながら、インタビュー練習の自己評価を行い、うまくできたこと、難しかったこと、難しかったことの対策をまとめることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ○本番に向け、よりよい取材を行なうための役割分担や難しかった点の改善策を発表し、友だちの意見と合わせてグループ内で調整することができる。 【学びに向かう力、人間性等】

(3) 展開

時間	学習活動	指導上の留意点（○指導の手立て ●評価の観点）	備考
10分	<p>1 はじまりの挨拶をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Cの号令で挨拶 <p>2 本時の学習内容の確認をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習の目当てと内容 <p>前時の学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インタビューの概要について知り、インタビューの質問内容を決めたり、コミュニケーション上の留意点や記録の仕方を学ぶ <p>本時の学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インタビューの練習を行い、本番の取材に向けて役割分担や難しいと思われることの対処法をグループで決める ・ゲストティーチャーの紹介 	<p>○前時の学習内容を学習プリントを参考にしながら振り返り、本時の学習のめあてと内容を確認する。</p> <p>●前時の学習のポイントを押さえているか。</p> <p>●本時の学習について理解できたか。</p> <p>○適度な緊張感をもてるようにするため、ゲストティーチャー（校長・教頭）に協力をお願いする。</p>	<p>前時の学習プリント</p>
15分	<p>3 インタビューの練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二つに分かれてグループ活動 ①A・E・F ②B・C・D <p>取材本番に向けて、インタビューの練習をしよう</p>	<p>○本時は、15分間で全員がインタビュアー・記録係・カメラマンの役割を体験できるようにする。</p> <p>○T1・T2は各グループに入り、生徒の様子を見守り、必要に応じてアドバイスを行う。生徒から質問や相談が出たら、丁寧に対応する。</p> <p>●前時の学習内容のポイントを押さえて、ゲストティーチャーへのインタビュー活動を行うことができたか。</p> <p>●困ったときは、グループ内で相談したり、教員に支援を求めたりすることができたか。</p>	<p>グループ作成の質問プリント 記録用紙 カメラ 必要に応じて録音機器</p>
20分	<p>4 インタビュー練習後の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己評価 ・ゲストティーチャーからの評価を聞く ・T1、T2の評価 	<p>○自己評価の観点を明確にした評価表を使用する。</p> <p>○T1・T2が各グループの生徒に対し、必要に応じて支援を行う。</p> <p>●的確に自己評価を行うことができたか。</p> <p>○生徒だけでは得にくい新しい気づきが引き出せるように他者評価をとり入れる。</p> <p>●ゲストティーチャーやT1・T2の評価を、顔をしっかりと見て聞くことができたか。</p>	<p>評価表</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価の見直し ・グループ内の話し合い 本番の役割分担を円滑に進めるための手立ての考察 	<ul style="list-style-type: none"> ○T1・T2が各グループの生徒に対し、必要に応じて支援を行う。 ●他者評価を受けとめることができたか。 ○T1・T2が各グループの話し合いに参加し、必要に応じて支援を行う。 ●話し合いに参加しているか。 ●ゲストティーチャーやT1・T2の評価を参考にしながら、本番での役割分担や、取材を円滑に進めるための手立てについて話し合うことができたか。 ●話し合いで困った時は教師に支援を求めることができたか。 	学習プリント
5分	<ul style="list-style-type: none"> 5 次時の予告を聞き、終わりの挨拶をする。 ・次時の学習の目当てと内容 ・ゲストティーチャーへのお礼 ・Cの号令で挨拶 	<ul style="list-style-type: none"> ○次時は、実際の取材の準備に入ることを予告し、意欲を高める。 ○ゲストティーチャーに感謝の気持ちを込めて、お礼の挨拶を行うよう促す。 ●次時の学習に見通しをもてたか。 	

※全体を通じて、次の配慮を行う。

生徒	配慮事項
A	表情等を観察し苛立つ様子がみられたら、エスケールームでクールダウンするよう促す。
B	音声言語以外の表出方法について案を提示し、自分で選択できるように支援する。
C	グループ全体の視点で考えることができるように、教師も話し合いに参加し導くようにする。
D	できている部分を大いに認め、前向きに学習できるように支援する。
E	表情や様子を見て理解できていないようであれば、支援を求めるよう促す。
F	緊張が強い時は、緊張を和らげる方法を提案し、一緒に行うようにする。

7 本時の評価

(1) 共通評価

- 自己評価・他者評価に基づき、インタビュー本番での自分の役割を自己選択したり、難しかったことの対処法を決めたりすることができたか。 (思考・判断・表現)
- 自己評価・他者評価に基づき、本番での役割分担や、取材を円滑に進めるための手立てをグループで決めることができたか。 (主体的に学習に取り組む態度)

(2) 個別評価

生徒	評 価
A	<ul style="list-style-type: none"> ●自己評価に基づき、安定した気持ちで臨むことのできる役割を選択することができたか。 【思考力、判断力、表現力等】 ●友だちの意見にも耳を傾け、円滑にインタビューを進めるための手立てを伝えることができたか。 【思考力、判断力、表現力等】

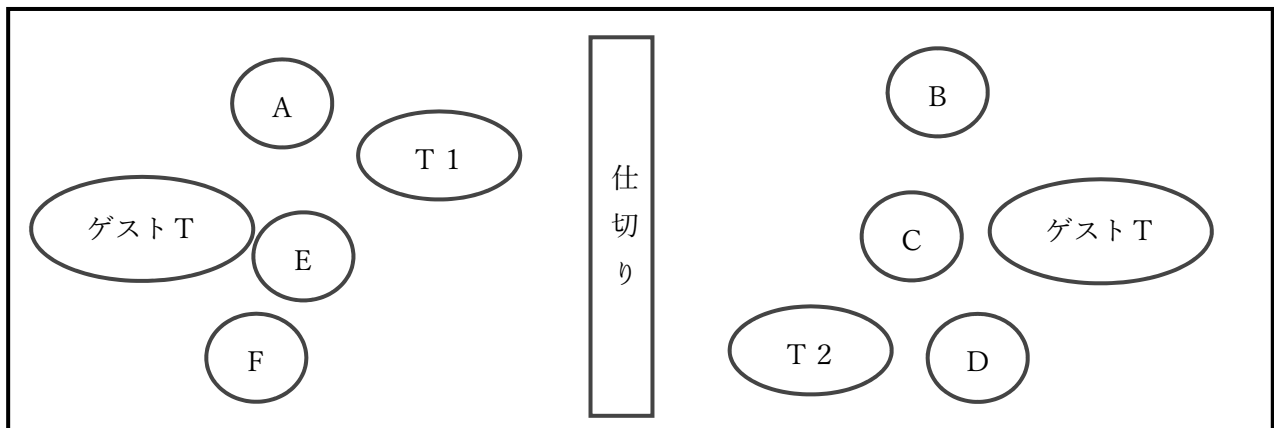
B	<p>●自己評価に基づき、難しかったことの対処法も含めて自分の役割を決めることができたか。 【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>●他者評価を参考にしながら、円滑に取材をするための役割分担や工夫についてアイデアを伝えることができたか。 【学びに向かう力、人間性等】</p>
C	<p>●他者評価を素直に受けとめ、自己評価を考え直すことができたか。 【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>●他者評価を受けとめ、円滑に取材を進めるためのグループ内の役割分担調整やインタビュー方法の工夫についてまとめることができたか。 【学びに向かう力、人間性等】</p>
D	<p>●他者評価を参考にしながら、難しかったことの対処法も含めて、自分の役割を決めることができたか。 【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>●友だち同士の話し合いを受けて、自分の役割の準備や工夫について、具体的に表現することができたか。 【思考力、判断力、表現力等】</p>
E	<p>●友だちや教師に相談しながら、本番でやってみようと思う役割を選択することができたか。 【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>●話し合いでの友だちの意見を参考にしながら、自分が引き受けた役割の準備や工夫について具体的に表現することができたか。 【思考力、判断力、表現力等】</p>
F	<p>●他者評価を聞いて、挑戦してみようと思う役割を決めることができたか。 【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>●本番に向け、グループ内の役割分担調整や円滑にインタビューするための具体的な準備についてまとめることができたか。 【学びに向かう力、人間性等】</p>

(3) 指導・支援の評価

- ・生徒の実態に即した目標が設定されていたか。(主体的な学び)
- ・生徒が見通しをもって学習できるような授業展開であったか。(主体的な学び)
- ・ゲストティーチャーの参加や評価は効果的であったか。(対話的な学び)
- ・自己評価表は適切であったか。(主体的な学び)
- ・生徒同士の対話が円滑に進むように必要最低限の支援を行うことができていたか。(対話的な学び)
- ・生徒が支援を求めてきた時に障害の特性や生活年齢等を考慮した支援を工夫できたか。(主体的な学び)
- ・ゲストティーチャーも含め、共通理解をもってチーム・ティーチングがなされていたか。(対話的な学び)

8 備考

- ・座席配置 (インタビュー練習時)



自己評価表 ※できた…○ どちらともいえない…△ できなかった…×をつけましょう。			
役割	評価の観点	自己評価	見直し
インタビュー	・聞きたい内容が伝わったか。		
	・挨拶やお礼を言うことができたか。		
	・相手の顔を見て話したり聞いたりできたか。		
	・相手を不快にさせる態度や表情をしていないか。		
	・丁寧な言葉遣いで話せたか。		
	・聞きとりやすい声の大きさや速度で話せたか。		
	・わからない時は聞き返したりして内容を捉えたか。		
	・気持ちに余裕をもってインタビューできたか。		
	＜難しかった点の解決法＞		
記録係	・挨拶やお礼を言うことができたか。		
	・相手の話の要点をメモすることができたか。		
	・わからない時は聞き返すことができたか。		
	＜難しかった点の解決法＞		
カメラマン	・カメラの扱い方がわかったか。		
	・写真を撮るタイミングがわかったか。		
	・挨拶やお礼を言うことができたか。		
	＜難しかった点の解決法＞		
その他	・困った時はグループ内で解決することができたか。		
	・事前の準備は足りていたか。		
<input type="checkbox"/> 可能な役割は……			
<input type="checkbox"/> 少し努力すればできそうな役割は……			

3 新聞づくりスケジュール（指導計画 全23時間）

月	9月	10月	11月	12月	1月	2月								
時	4	4	4	2	4	4								
学習活動	<p>見通しをもつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 全体での活動 <ul style="list-style-type: none"> ・新聞づくり概要の確認 ・グループ決定 ■ グループ決定 (三人2グループ) <ul style="list-style-type: none"> ・役割分担希望調査記入 	<p>取材準備をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ グループでの話し合い <ul style="list-style-type: none"> ・新聞の名称決め ・新聞掲載記事の決定 ■ グループでの活動 <ul style="list-style-type: none"> ・新聞の名称ロゴ作成 ・個人認証カード作成 (取材時使用) ・取材申し込み文書作成 	<p>取材をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ グループでの話し合い <ul style="list-style-type: none"> ・新聞掲載記事、取材内容の詳細決定 ・取材時における役割分担 ■ 全員での活動 <ul style="list-style-type: none"> ・取材申し込みの仕方の確認 ・インタビューの仕方の確認と練習 ■ グループでの活動 <ul style="list-style-type: none"> ・取材申し込み準備と実際の申し込み ・取材準備と実際の取材 	<p>編集をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 全員での活動 <ul style="list-style-type: none"> ・記事編集の仕方の確認 ・グループでの活動 ■ パソコンを活用しての記事の編集 (一人1記事担当) <ul style="list-style-type: none"> ・完成した記事の校正 <p style="text-align: center;">本時</p>	<p>配付をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 全員での活動 <ul style="list-style-type: none"> ・手紙の書き方確認 ・配付時のマナー確認 ■ グループでの活動 <ul style="list-style-type: none"> ・配付先の確認 ・手紙作成 ・配付の分担決め ・配付、送付 	<p>学習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 新聞づくりに対する見通し (目的・学習の流れ等) □ グループ決めの考え方 □ 新聞づくりに関する得意なこと、苦手なことの自己判断 	<p>学習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 話し合いへの参加の仕方 □ 話し合いの進め方 □ 新聞掲載記事決定にあたっての注意事項 □ ログデザインの方の作り方 □ 個人認証カードの作成 □ 取材申し込み文書作成の仕方 □ 役割の遂行 □ 困った時の対処の仕方 	<p>学習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> □ パソコンを使用した記事編集の仕方 □ 自分で請け負った記事の編集に責任もって取り組むこと □ できないこと、難しいことに対する対処の仕方 □ 友だちとの協力の仕方 	<p>学習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 手紙の書き方 □ 配付時のマナー □ 状況や相手に合わせたコミュニケーション □ 役割の遂行 □ 困った時の対処の仕方 	<p>学習目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 今後の学習に対する見通しをもち、主体的に取り組むことができる。 ○ 得意なこと、苦手なことを自分で考えることができる。 	<p>学習目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ グループの話し合いに参加できる。 ○ 自分の役割を理解して責任もって行うことができる。 ○ 困った時は相談することができる。 	<p>学習目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 練習をとおして、自分にできる役割、努力すればできる役割を考えることができる。 ○ 本番の取材が円滑に進むように、役割分担や難しい面の対処法について、グループで話し合うことができる。 ○ グループの三人で協力して、取材を行うことができる。 	<p>学習目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分が担当した記事に責任もって、完成させることができる。 ○ できないこと、難しいことは、友だちや教師に支援を求めたり、調べたりすることができる。 ○ 得意なこと、友だちの相談にのったり、手伝ったりすることができる。 	<p>学習目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ TPOに合わせたコミュニケーションをとることができる。 ○ 困った時は相談し、自分の役割を責任もって行うことができる。 ○ 作成した新聞を誇りに思うことができる。

1 教育支援プランA（個別の教育支援計画）

特別な教育的ニーズ	本児は現在、①2～3語文での発語があり、簡単な名詞や動詞の理解があるが、やり取りの際には自分の思いを上手く伝えられず支援を必要とすることが多い、②初めての活動は「やらない」と拒否を示すことが多く、できないことへの不安や自信のなさが見られるという状況である。従って、①適切な言葉や身振りによる表現を広げ、伝える力を高める、②自信を持って活動に参加し、自己肯定感を高める等の支援が必要である。支援に当たっては、①本児の思いを共感的に受け止め、様々な場面で自己表現する機会を意図的に設定する、②見通しの持ちやすい環境を作り、本児ができた実感できる活動を積み重ねる等の配慮が必要である。		
本人・保護者の願い	○友だちと仲良く学校生活を送ってほしい。 ○自分でできることが増えてほしい。		
合理的配慮の内容	○何を、どうすればよいか具体的な伝わるように、言語や視覚支援の環境を整える。 ○称賛される経験を積み重ねられるように、本児が自らできる状況作りを行う。		
教育機関の支援	目標・機関名	支援内容	評価
	所属校	①適切な言葉や身振りで気持ちや要求を伝えられる場面を広げる。 ②様々な集団での活動に、自分から参加する意欲を高める。	①場面に応じて、言葉を復唱させたり、身振りを模倣させたりすることで、やり取りの幅を広げる。 ②手順表や友だちへの注目を促し、見通しを持って学習参加できるようにする。

2 教育支援プランB（個別の指導計画）

指導方針	<ul style="list-style-type: none"> ・本児の思いを共感的に受け止め、自己表現の表出を様々な場面で増やしていく中で、気持ちや要求を言葉や身振りで伝えることを積み重ねる。 ・自信を持ってできる活動を中心に、教員と行うことから始め、できた実感を高める。 		
指導に結びつく実態			
4 環境の把握	<ul style="list-style-type: none"> ・10までの数唱ができる。3個までであれば、数を聞いて取ることができる。 ・言葉の指示では1～2個、絵カードで示すことで3個のものを覚えて取ることができる。 ・簡単な形や色のマッチングができ、色名を答えることができる。 		
6 コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な名詞や動詞の理解がある。 ・食べ物は何が好き？等の簡単な質問に答えることができる。 		
教科・領域等	学習課題・目標	指導内容・方法（手だて）	評価
算数	○大きさや長さに着目し、比べて選ぶ、並べる等の操作ができる。 ○5～10までの数を数えて、取る、分ける等のやり取りができる。	○具体物を用いて、選ぶ、動かすなどの操作を行いながら、大きさの違いを体感できるようにする。 ○数字カードを用いる等、視覚的に数を伝え、自分から数を意識してやり取りできるようにする。	

3 年間指導計画

月	題材名	授業目標	指導内容・手だて	評価	時数
前期	4 「三びきのやぎのがらがらどん！」	<ul style="list-style-type: none"> ・物の大きさや長さに着目して見比べる。【知識及び技能】 ・大きさや長さを表す言葉に親しみ表現する。 	①人形劇をしよう ・大小のヤギ、長短の橋等、児童に応じて学習要素を増やしていく。 ②劇ごっこをしよう ・大小のヤギで言葉や身振りを変える等、違いに気付けるようにする。		/ 15
	5	<ul style="list-style-type: none"> 【思考力、判断力、表現力等】 ・物語に関心を持ち、自分からやり取りする。 【学びに向かう力、人間性等】 			
	6	<ul style="list-style-type: none"> 【思考力、判断力、表現力等】 ・物語に関心を持ち、自分からやり取りする。 【学びに向かう力、人間性等】 			
	7	<ul style="list-style-type: none"> 【思考力、判断力、表現力等】 ・物語に関心を持ち、自分からやり取りする。 【学びに向かう力、人間性等】 			
	9 「お弁当なあに？」	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ物に着目し、数えて分けることができる。【知識及び技能】 ・数を数えて相手に伝えること 	①お弁当準備 ・児童に応じて数える種類を増やす。 ②お弁当作り ・数字カードを活用して理解を促す。		/ 10

		ができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・お弁当を自分で工夫し、表現 することを楽しむ。 【学びに向かう力・人間性等】	③お弁当なあに？ ・発表のやりとりで理解を深める。		
--	--	--	------------------------------	--	--

4 ポイントを絞った指導案

小学部〇年 教科別の指導「算数」 学習指導略案

- 1 題材名 「お弁当なあに？」
- 2 日時 令和〇〇年〇月〇日（〇曜日） 第〇校時 〇：〇〇～〇：〇〇
- 3 場所 小学部〇年〇組教室
- 4 題材設定の理由

本グループの児童は、男子6名、女子1名の計7名で構成されている。コミュニケーション面では、発音が不明瞭であったり、他者との関わりが一方的になってしまったりすることに課題がある。学習面では、10までの数字を数唱したり並べたりすることができる児童が5名、数唱はできるものの数字理解はまだ難しい児童が2名いる。文字理解は、平仮名の読み書きができる児童が1名、読めるが書くことは難しい児童が1名、自分の名前等の見慣れた形は見分けることのできる児童が5名である。

学習指導要領「算数科」の目標には、「日常の事象を数量や図形に注目して処理する技能を身に付ける（知識・技能）」、「数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表す（思考力・判断力・表現力）」、「数学的活動の楽しさに気づき、関心や興味をもち、学習したことを結び付けてよりよく問題を解決しようとする（学びに向かう力、人間性）」等と記載されている。本題材においては、児童の身近にあり、イメージを持ちやすい「お弁当」を取り上げ、児童が興味関心をもって「集める」、「（数量に注目して）考える」、「数える」、「（数学的表現で）伝える」等の様々な数的操作に取り組めるようにした。お弁当のおかずは、「丸くて赤いトマトが3つ」等、色、形、数の要素に着目して児童に考えさせやすい教材となる。それを「お弁当作り」として児童に提示することで、「トマトをいくつ入れようか（数量）」「野菜と果物を分けて入れよう（仲間分け）」等、数学的な見方・考え方に自然と親しみつつ、自ら考えてやり取りできるようにしていきたい。また、自分が作ったお弁当の中身を見合う活動を設定して、友だちの話を聞いたり、数学的な表現を用いて相手に伝えたりする機会を設ける。自分が考えたことを振り返って相手に伝えたり、自分ができたことを相手に肯定的に評価されたりすることで、個々の学習の成果を集団で共有し、「またやりたい」と次の学習への意欲につなげてほしいと考える。

- 5 指導計画（全10時間扱い）
 - (1) お弁当なあに？・・・4時間（本時1／4時間）
 - (2) 先生のお弁当なあに？・・・2時間
 - (3) 友だちのお弁当なあに？・・・4時間

6 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の視点

食べ物のイラストカードを用いて、自分から仲間分けを行うことができるようにする。また、作業手順表を個に応じて用意し、準備、レシピボード作成、お弁当作りと活動場所を分けることで、自分でできる状況作りを行う。さらに、自分の作ったお弁当を友だちに伝える場面では、「〇〇が〇個あります」等のセリフカードを用いて表現できるようにしたり、友だちのお弁当の中身や数を聞いて答える場面を設定したりする等、対話的なやり取りが広げられるように工夫する。

7 抽出児童の実態

氏名（記号）	題材にかかわる実態	合理的配慮の実施内容
A	<ul style="list-style-type: none"> ・10までの数唱ができる。3個までであれば、数を聞いて取ることができる。 ・言葉では1～2個、絵カードで示すことで3個のものを覚えて取ってくるることができる。 ・簡単な形や色のマッチングができ、色名を答えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・何を、どうすればよいか具体的に伝わるように、言語や視覚支援の環境を整える。 ・称賛される経験を積み重ねられるように、本児が自らできる状況作りを行う。

8 本時の目標

(1) 共通目標

- ・色や数の要素に着目して、自分でお弁当を作ることができる。 (知識及び技能)
- ・教員や友だちに、自分が考えたお弁当を伝えることができる。 (思考力、判断力、表現力等)

(2) 個人目標 (A 児)

- ・お弁当のおかずを自分で考え、数を数えてお弁当箱に入れ分けることができる。 (知識及び技能)
- ・「～が～個あります」等、おかずの種類と個数を友だちに伝えることができる。 (思考力、判断力、表現力等)

9 本時の展開

時間	学習活動	○指導・支援の手立て及び指導上の留意点	備考
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> ○始まりの挨拶 ・呼名による出席確認 ○パネルシアター『お弁当箱の歌』を見る。 ・様々なおかずに注目して、活動へのイメージを持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童が自分の名前と「よろしくお願ひします」を言えるように促す。 ○おかずパネルは様々なバリエーションを用意し、『お弁当箱の歌』の替え歌で児童に見せていく。 ・完成したお弁当パネルをみんなで確認し、好きなおかずを児童に聞く等、やり取りの中で関心を引き出す。 	パネルシアター
展開 20分	<ul style="list-style-type: none"> ○お弁当作りの準備をする。 ・カゴの中に入っている食べ物模型を、種類ごとにお皿に分ける。 ○自分のお弁当を考える。 ・色で仕切り分けしたレシピボードにおかずイラストカードと数字カードを貼り合わせ、何のおかずを何個用意するか考える。 ○お弁当を作る。 ・レシピボードを見ながら、おかず模型をお弁当箱に入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童一人一人に、「野菜はどれ？」等と発問し、お皿に入れ分けるように促す。 ・学習の初期段階は、お皿にイラストカードを付けて、自分から仲間分けができるようにする。 ・児童に応じて、野菜と果物を分ける、いちごとトマトを分ける等、難易度を変えて提示する。 ○児童一人一人に、「今日のおかずはどれにする？」等と発問し、自分で選べるようにする。 ・おかずカードと仕切りの色や数字カードを対応させて選ぶことを、作業手順表を用いて視覚的に伝える。 ・提示する数字カードは、1～3、3～5等、児童に応じて数量を変えるようにする。 ○レシピボードを確認させながら、おかず模型の種類と数を正しく入れられるようにする。 ・児童に応じて、一緒に数を数えながら取るようにしたり、レシピボードを指差して確認させたりする。 ・完成したら、改めてレシピボードを教員と一緒に確認し、正しくできたかを確認するようにする。 	食べ物模型 カゴ 皿 レシピカード おかずカード 数字カード おかず模型 お弁当箱
まとめ 15分	<ul style="list-style-type: none"> ○お弁当の中身を発表する。 ・友だちに向かって、自分のお弁当の中身を伝える。 ○終わりの挨拶をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○セリフカードを用いたり、「トマトは何個？」等の教員の質問に答えたりしながら、何をどう伝えるかを児童が表現できるようにする。 ・「～が～個あります」等、セリフを統一して児童と復唱しながら、発表の仕方を学べるようにする。 ○児童に応じて、教員との対話形式で発表するようにする。 ・「○○くんのお弁当にはおにぎり何個だった？」等、聞いている児童にも教員が質問し、聞く姿勢を整えられるようにする。 ○本時の授業で頑張ったことを伝える。 	セリフカード 立ち位置 マット

10 本時の評価

(1) 児童の学習評価

- ・提示した色や数を意識して、レシピボードとお弁当を作ることができたか。 (知識・技能)
- ・教員の質問に答えながら、自分のお弁当を発表することができたか。 (思考・判断・表現)

(2) 教師の指導評価

- ・児童が自分で活動する姿を引き出せるようにイラストカードや手順表を提示することができたか。 (主体的な学び)
- ・児童が自分で表現したり、友だちの発表を聞いたりする姿を台詞カードや教員が質問することで引き出すことができたか。 (対話的な学び)

-
- (3) 自由記述 (授業について気づいたことがありましたら、記入の上、別紙又は切り取って T1 に提出してください。)

5 指導案（本指導案・略指導案）

小学部高学年Aグループ 日常生活の指導 学習指導略案

- 1 単元名 「朝の会をしよう」
- 2 日時 令和〇〇年〇月〇〇日（〇曜日） 第〇校時 〇：〇〇～〇：〇〇
- 3 場所 小学部高学年（〇年Aグループ）教室
- 4 単元設定の理由

高学年Aグループは〇年6名の児童で構成されている。自閉症を併せ有する児童が4名おり、苦手な声等で離席したり、意に添わないと大声を出したりしてしまう児童もいる。コミュニケーション面では、単語や二語文で意思表示できる児童が3名で、3名はサイン動作や表情、発声等で自分の気持ちや意思を表現している。

朝の会は児童にとって全員で顔を合わせ、友だちや教員を意識できる時間である。また、毎日同じ流れで行うため、児童が見通しをもって自分から活動しやすい。生活科の内容の「人との関わり」、「日課・予定」、「役割」、国語科の「聞くこと・話すこと」等の内容を児童の課題に応じて支援方法を工夫していくことで、コミュニケーションの力を向上させ、日課に関する言葉や文字等の関心を高めることができる。

会の進行は、めくり式の進行カードを使い、その日の当番の児童が担当することとし、全員が経験できるようにする。また、当番の呼名を受けて児童が一人ずつ前に出て朝のあいさつを行うことで、個々の表現力を伸ばすようにする。さらに、「今日の予定」、「献立」等の発表の役割も特定の児童に固定せず、発語がない児童も教員の支援を受けながら担当し、意欲的に参加できるようにする。「今日の予定」の補足説明では、状況に応じて写真等を提示することで、児童がその日の学習の見通しを持って一日過ごせるようにしたい。

5 指導計画

- ・年間を通して朝の運動後または朝の着替え・排泄の後に行う。行事の前は、「おはようの歌」を行事に関する歌に変え、児童の季節感や期待感を高めるようにする。

6 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の視点

- ・進行カード等を使用し、児童が自分で考えて活動できるようにする。
- ・当番の児童が呼名をしたり、発表する児童に選び差し棒を渡したり等の児童同士がやりとりをする場面を大切にする。
- ・日程を、写真等を用いて分かりやすくすることで、児童が一日の流れに見通しをもって過ごせるようにする。

7 本時の目標

- ・当番活動、朝のあいさつ等を行うことができる。 （知識及び技能）
- ・一日の学習の見通しをもつことができる。 （思考力、判断力、表現力等）
- ・会の流れを理解し、自分から活動できる。 （思考力、判断力、表現力等）

8 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点（・指導の手立て○評価の観点）	備考
5分	・自分の椅子を所定の場所に運び、着席する。	・床に目印を付けておき、自分から椅子を運んで着席できるようにする。当番は前に椅子を運ぶように言葉かけや支援をする。	
5分	1 はじめのあいさつをする。	○会の始まりを意識して自分から椅子を運んだり、着席したりできたか。（思考力・判断力・表現力等） ・当番が進行カードをめくりながら進行できるようにT1は児童の実態に応じて支援する。 ・当番に注目し、当番の言葉かけや手話に合わせて、はじめのあいさつができるように支援する。 ・踵を床につけて、よい姿勢であいさつできるよ	めくり式進行カード

5分	2 「おはようの歌」を歌う。 ・歌の後半では友だちと手をつなぐ。 3 朝のあいさつをする。 ・当番の児童に呼名された児童は前に出て挨拶をする。	う、よい姿勢の児童を褒めて児童の気付きを促す。 ・歌の後半で友だちと手をつなぐことで、クラスの友だちを意識できるようにする。支援は最小限にする。 ・足形マットを置き、児童の立ち位置をわかりやすくする。 ・当番の実態に応じてT1は呼名の支援をする。 ・発語のない児童があいさつする時は、T1が児童の動作に合わせて「おはようございます」と言い補足する。	足形マット
8分	4 「日付」、「予定」、「献立」を発表する。 ・当番に指名されたら前に出る。 ・今日の日付・天気を確認する。 ・今日の予定を確認する。 ・今日の献立を確認する。 5 教員の話聞く。	○当番の呼名に応じて、前に出て朝のあいさつができたか。 【知識及び技能】 ・当番が発表する児童を決め、差し棒を手渡せるように支援する。児童同士のやりとりを大切にす。同じ児童を指名しないように言葉かけ等の支援をする。 ・発語のない児童は、差し棒で日課カードを指す等で意思を表出できるように支援する。 ・当番が進行カードをめくることで、活動の区切りを意識し、児童が集中できるようにする。 ・離席した児童がいた場合には、T2、またはT3が進行の妨げにならないように着席を促す。	差し棒 日付・天気カード 日課カード 場所カード 今日の献立プリント
2分	6 終わりのあいさつをする。 ・椅子を自分の机に戻す。	○当番に指名された児童が、「日付」、「予定」、「献立」を実態に応じて発表できたか。 【知識及び技能】 ・「予定」をわかりやすく、必要に応じて写真等を提示しながら簡潔に説明する。 ・当番の言葉かけで、よい姿勢で実態に応じた終わりのあいさつができるようにする。 ・椅子を自分の机に戻せていない時は言葉かけ等を行う。	写真等(予定を補足)

9 準備物

(1) 用意する物

各自の椅子、めくり式進行カード、差し棒、ホワイトボード、日付・天気カード、日課カード献立プリント(事前に係の児童が書いておく)、進行カードを置く椅子、写真

(2) 教室内環境図略

10 本時の評価

(1) 児童の学習評価

- ・児童が取組内容を理解して自分から活動できたか。(知識・技能)
- ・友だちを意識して朝のあいさつややりとりができたか。(思考・判断・表現)

(2) 教師の指導の評価

- ・発語のない児童の表情や動作、サイン等を引き出す支援や場面設定ができたか。(主体的な学び)
- ・児童同士のやりとりを引き出す支援や場面設定ができたか。(対話的な学び)
- ・写真等を手がかりとして1日を通して見通しをもって活動する様子が見られたか。(深い学び)

- 1 単元名 「朝の会をしよう！」
- 2 日時 令和〇〇年〇〇月〇〇日（〇曜日） 第〇校時〇：〇〇～〇：〇〇
- 3 場所 高等部〇年〇組教室
- 4 単元設定の理由

高等部〇年〇組の生徒は男子4名、女子3名の7名で構成されている。日常生活動作が確立している生徒がほとんどであるが、言語面や認知面では、社会経験の不足や難聴などの障害から知識・技能の獲得、良好な人間関係の構築、自己の意思表示等が課題となっている。

朝の会は、一日の生活に対する意識を高め、一日を気持ちよく始めるために大切な時間である。クラスで一斉に行う挨拶ややり取りは、友だちや教員との集団意識を高める。また、一日の予定やその変更を確認し、一日の見通しを持ち、落ち着いて学校生活を送ることができるようにする。健康観察では呼名や握手等により友だちとの関わりを深められるようにする。また、学習指導要領の「国語」や「社会」の内容を取り扱い、昨日の出来事やニュースの発表を行う。自分の事や新聞やニュースで知った出来事を報告・発表することで表現力・伝達力を高め、また友だちの発表を聞くことにより自分の考えを深めることができるようする。

また、生徒が見通しを持つことで、落ち着いて参加できるように、毎日決まった流れで進める。様々な活動への参加や話を聞くことが困難な生徒に対しては個別の言葉かけや視覚支援をし、意識づけを行う。また興味・関心を持ちやすいブギーボード等の教具を使用して支援を行い、表出に対して積極的に即時評価する。良好な人間関係を育み、他者との情動の共有を発展させ、卒業後の共生社会に生きる一員としての資質を育てていく一助としたい。

5 指導計画

	授業目標	授業時数
1	クラスの友達や教員と一緒に最後まで会に参加できる。	15 時間
2	昨日の出来事、ニュースを発表することができる。	21 時間（本時 6/21）

6 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の視点

見通しが持てている内容に関しては支援を最小限にし、自ら考え、率先した自主的な行動を積極的に評価することで、主体的な学びを進められるように心がける。また、昨日の出来事、ニュースの発表を通して、自分の意見を言ったり相手の考えを受けたりして、対話的に学ぶとともに、自分の考えと学びが深まるよう支援を行っていく。

7 本時の目標

(1) 共通目標

- ・一日の始まりを意識して、一日の生活の見通しを持つことができる。（知識及び技能）
- ・日直や係り活動を通して、自分の役割を果たすことができる。（思考力、判断力、表現力等）
- ・クラスの友達や教員と交流を深めながら落ち着いて参加することができる。（学びに向かう力、人間性等）

(2) 個人目標

	本時に関する目標
A	〇挨拶時の気をつけを足を揃えて行うことができる。【知識及び技能】

(日直)	○自ら日直の仕事に取り組み、友達が聞き取れる声で話すことができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ○日直の係りを通して自信を持ち、積極的に参加できる。 【学びに向かう力、人間性等】
------	--

8 本時の展開

配時	学習活動	指導支援の手だて及び指導上の留意点			備考
		A (日直)	B	C	
1分	1 集合する。	・日直の意識や心構えを持てるように事前に伝える。			健康観察簿
1分	2 挨拶をする。	・日直が見本を示す役割であると励まし、足形を指し示す。	・自分から礼や挨拶、返事をするように手順書を示す。		
6分	3 健康観察をする。	・係の生徒の名前が呼べるように役割分担表を示す。	・日直が求める方法(握手か返事)で返答をするように伝える。		
4分	4 今日の予定を確認する。	・今日の予定を読みやすいようにホワイトボードの文字を指し示す。	・ホワイトボードの文字を指し示し、注目を促す。		ホワイトボード 連絡帳
3分	5 先生の話聞く。	・話の内容について質問し、発言を促すことで理解を深める。	・先生の話と、生徒の発表の内容をブギーボードに文字や絵を記入して提示し、話の内容について質問する。		
4分	6 昨日の出来事、ニュースを発表する。	・発表が曖昧な内容にならないように、具体的な場所や物事を話すことができるように適宜質問をする。			ニュースノート
1分	7 挨拶をする。	・発声とサインで号令をかけるように促す。	・始まりの挨拶と同様		

9 備考

10 本時の評価

(1) 生徒の学習評価

A	○挨拶時の気をつけを足形にそってできたか。 【知識・技能】 ○自ら日直として号令、指示、伝達をはっきりとできたか。 【思考・判断・表現】 ○日直として、活動に見通しを持ち自分から行動することができたか。 【主体的に学習に取り組む態度】
---	---

(2) 教師の指導の評価（学習環境や教材教具等についての評価も含む）

ア 授業構成（指導手順、時間配当、指導形態等）について

- ・ 継次的な説明により生徒に対して分かり易い指示や説明ができたか。（主体的な学び）
- ・ 教員間の指導形態における生徒の実態の共有により、スムーズに授業をすすめることができたか。（主体的な学び）

イ 教師による支援（環境設定、教材教具の工夫等）について

- ・ Bの聴覚障害への支援としてブギーボードにてT1が説明したことを理解させることができたか。（主体的な学び）
- ・ 様々な刺激の影響を受けやすい生徒に対して刺激の統制を行い、教員の指示に注目させることができたか。（主体的な学び）

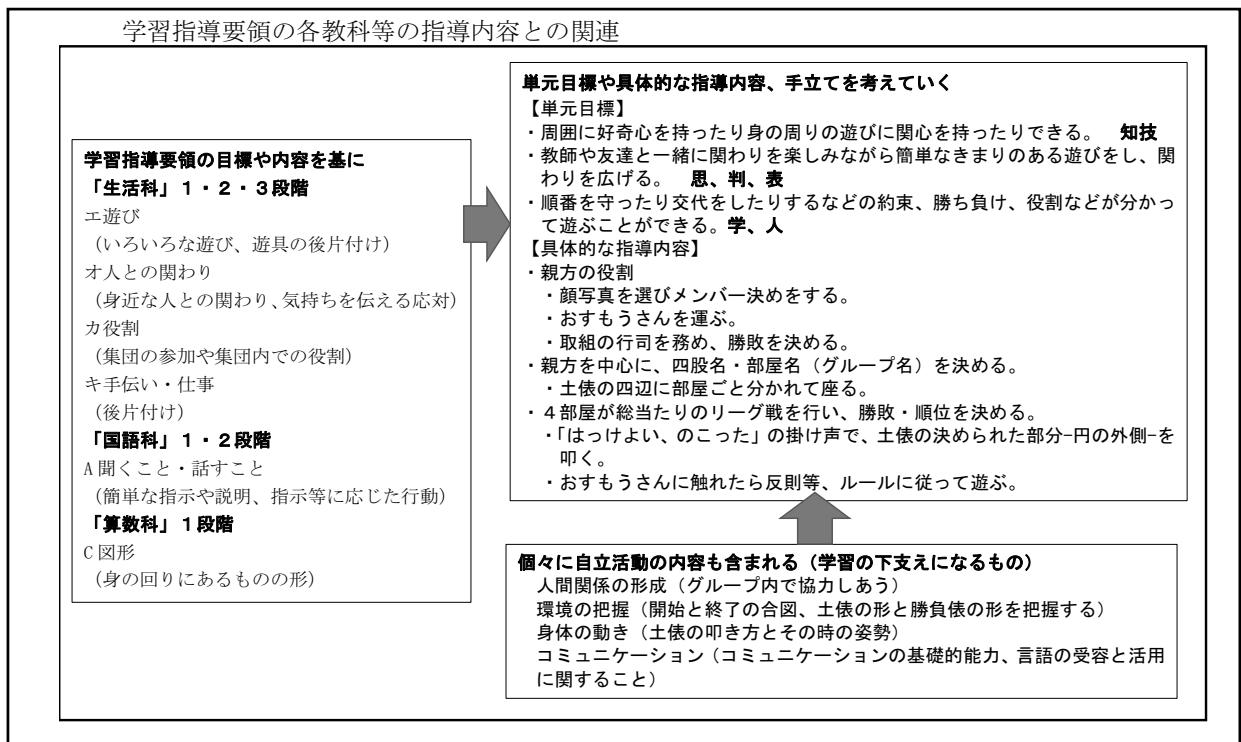
(3) 自由記述（授業について気付いたことがありましたら記入の上、T1に提出してください。）

- 1 単元名 「大型紙相撲で遊ぼう」
- 2 日 時 令和〇〇年〇月〇〇日（〇曜日）第 5 校時 〇〇：〇〇～〇〇：〇〇
- 3 場 所 小学部 6 年 2 組・重複 2 組教室
- 4 単元設定の理由

本グループは、4 年生 6 名、5 年生 1 名、6 年生 12 名（重複障害学級 3 名）の計 19 名の児童で構成されている。太田ステージ評価法によると Stage I - 2 から IV - 1 と幅が広い。

遊びの指導では、自分から好きな遊びをする、安定した気持ちで大きな身体活動ができる遊具を活用した遊びをする、教員や友達と簡単な遊びをする、友達と協力しきまりを守った遊びをするなど各段階の一人一人に応じた内容での課題設定が可能である。これらのことを踏まえ、学習指導要領「生活科」の各段階にみられる内容の「エ遊び」、「オ 人との関わり」、「カ 役割」、「キ 手伝い・仕事」の項目、「国語科」の「A 聞くこと・話すこと」や「算数科」1 段階「C 図形」の指導内容も意識して活動内容やルールを設定を行う。

紙相撲は身近な材料である紙を使用しており、子供達が親しみやすい。また折る・切る・塗るなどアレンジも用意である。さらに、相手が必要で簡単なルールのある活動であることから、興味・関心の広がり、約束・ルールを守る力や主体的に周囲に働きかける力、役割を意識して集団の中で活動できる力などを育むことができる。以上の理由により、単元を設定し、週 1 時間、異学年集団 4 グループでのリーグ戦のかたちで取組を設定した。



- 5 指導計画（全 7 時間扱い）
 - (1) グループ（部屋）分けをしよう・・・・・・・・・・ 1 時間
 - (2) グループ（部屋）名を決めよう・・・・・・・・・・ 1 時間
 - (3) はっけよい、のこった・・・・・・・・・・ 5 時間（本時 3 / 5）
- 6 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の視点
活動の流れや勝敗に関するルールが分かってきたら、行司役の教員が勝敗に対する

児童の判断や発言を引き出すための間を工夫する。また親方の児童に行司役を任せて、その補佐に回るなど児童が活躍できる場面設定をする。そのほか、準備や片付けなど個々の課題に応じた手伝いを設定し、繰り返す中で、自ら考え取り組む意欲に結びつけられるようにする。

7 本時の目標

- ・反則しないで勝敗を競うことができる。 (知識及び技能)
- ・自分たちの順番に気付き、準備し活動できる。 (思考力、判断力、表現力等)
- ・一人一人が自分から取組に参加できる。 (学びに向かう力、人間性等)

8 本時の展開

時間	学習活動	指導・支援の手立て及び指導上の留意点	備考
5分	1 集合する。 2 はじめの挨拶をする。 3 集団遊びの歌を歌う。	・各自教室から椅子を持ち寄り、部屋別に座る。 ・挨拶したい児童を募り、行う。 ・「さんぽ」の替え歌。 発声を促すよう教師が率先して歌う。	各自の椅子 顔写真 部屋名カード 力士名カード
3分 5分	4 前回の振り返りをする。 5 取組を開始する。 ・行司に呼ばれた部屋毎に決められた位置に移動する。 ・土俵を叩いて勝負する。	・頑張っていた点、注意点、順位等を思い出せるよう振り返りをする。 ・4部屋が総当たりになるよう取組を行う。 ・土俵の左右に振り分ける。 ・合図に合わせた動作、勝敗、反則等の約束の確認。 ・行司の「かまえて」を合図に両手を挙げ準備する。 ・「どっちが勝った？」などの問いかけをする。 ・行司が取組の様子を再現し伝え、判断材料を提示。 ・勝敗を取組表に○×で表記する。	大型紙相撲の力士 土俵 (段ボール箱 ・板ボール紙 ・布)
5分	6 結果を聞く。 7 終わりの挨拶をする。 ・片付けをする。	・結果発表をする。第4位から発表をする。 ・挨拶したい児童を募り、行う。 ・手伝いできる児童は土俵・椅子を片付ける。 ・一人で運べない児童は教師と協力して運ぶ。	土俵の段ボールを畳んで入れる箱

9 準備物

- ・各部屋名の表示パネルと個人の顔写真
- ・土俵用品 (土台部段ボール箱 12、布 1 枚、土俵板段ボール勝負俵つき)
- ・段ボール製おすもうさん 4 体 (まわしの色で部屋を区別)
- ・グッズ収納台

10 本時の評価

(1) 児童生徒の学習評価

- ・ルールが分かり、活動できたか。 (知識・技能)
- ・自分の部屋(グループ)名が分かって、準備し活動できたか。 (思考・判断・表現)
- ・意欲的に活動に参加できたか。 (主体的に学習に取り組む態度)

(2) 教師の指導評価(学習環境や教材教具等についての評価も含む)

ア 授業構成(指導手順、時間配当、指導形態等)について

- ・前回の授業の振り返り(個々の頑張りや順位発表等)を受けて、児童が主体的・意欲的に活動できていたか。 (主体的な学び)

イ 教師による支援(環境設定、教材教具の工夫等)について

- ・取組の順番や準備位置への動線確保等、児童が主体的、能動的に活動に取り組めるような環境設定(視覚支援、構造化)ができていたか。 (主体的な学び)

(3) 自由記述(授業について気付いたことがありましたら記入の上、別紙又は切り取ってT1に提出してください。)

- 1 単元名 「お仕事しましょう～『おひさまカフェ』開店！～」
- 2 日 時 令和〇〇年〇月〇日（〇曜日） 第〇校時 〇〇：〇〇～〇〇：〇〇
- 3 場 所 小学部6年1組教室
- 4 単元設定の理由

本学級は、6年生の児童5名で構成されている。太田ステージ評価法によると、いずれも Stage III-1～III-2の児童で、1～2・3語文を駆使しながら簡単な言葉のやりとりによってコミュニケーションがとれる。また、本学級の児童は、小学部高学年になって以降、「大人への憧れ」や「かっこいいおにいさん、おねえさんになりたい」という思いが高まり、新たな興味・関心や社会認識の広がり、学習意欲の向上につながっている。その一方で、自我の芽生えとともに自己主張が強くなり、些細なことから友だち同士のトラブルになることもある。

本校の近隣に開店した社会福祉法人の運営するカフェは、「おしゃれ」な雰囲気、児童にとって「大人の雰囲気」を味わうことができる憧れの場所である。また、本校の卒業生がクッキーづくりをしている姿を実際に見学できたり、接客する先輩と直接触れ合ったりして、より身近に「お仕事」（働くこと）の意味を理解することができる場所である。そこで、本単元では、生活科の「カ 役割」、「キ 手伝い・仕事」の指導内容と関連付けながら、カフェの企画運営を通して「お仕事」の疑似体験を行う。小学部段階のキャリア教育として、自分以外の誰かに喜んでもらうことの楽しさを体験したり、働く喜びを知ったり、また、友だち同士で協力し合ったりすることの大切さの理解につなげたい。また、地域の身近な社会資源を活用し、連携していくことで、児童が実際の社会に触れながら学習意欲の向上を図ることができる考えた。

指導に関しては思春期・青年期を迎えていく本学級の児童に、成長したい、大人になりたいという願いを大切に、実際に出かけたカフェで感じたことや、そこで働く先輩の話を思い出しながら、どのようにお客さんをもてなしていけばよいのかなどを考えながら活動できるようにしたい。お客さんには、管理職や担任外の教員、保護者（土曜参観日）などになってもらい、身近な人に喜んでもらうことで、働くことの楽しさを実感できるようにしたい。また、友だち同士で話し合っただけのカフェの名前や準備するものを考えたり、役割分担をしたりするなどの協力し合う取組を大切にしながら、一つのものを作り上げていく喜びを体験できるようにしたい。さらに、国語や自立活動等の指導と関連させながら、マナーや言葉づかい等の学習を進め、より実践的に話し言葉やコミュニケーション能力を高めたい。

5 指導計画（全9時間扱い）

- (1) カフェに出かけよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間
- (2) カフェで働く先輩のお話を聞こう、みんなでカフェを開こう・・・・・・・・・・1時間
- (3) 『おひさまカフェ』ただいま準備中！①（エプロン、看板、接客の練習）・・・・・・2時間
- (4) 『おひさまカフェ』ただいま準備中！②（クッキーづくり）・・・・・・・・・・2時間
- (5) お仕事しましょう～『おひさまカフェ』開店！～・・・・・・・・・・3時間（本時2／3）

6 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の視点

カフェとそこで働く先輩の姿に具体的に触れ、それぞれの児童の「憧れ」の気持ちを大切に、そのことをイメージしながら、友だちと協力してカフェの仕事を疑似体験する。

7 本時の目標

- ・接客のマナーや言葉づかいを理解する。 （知識及び技能）
- ・自分の役割を理解し、友だちと協力してお客さんをもてなすことができる。 （思考力、判断力、表現力等）
- ・カフェで働く先輩の仕事を疑似体験することで、働くことの苦労や楽しさ、喜びを知り、身近なお手伝い活動に進んで取り組もうとする気持ちをもつことができるようにする。 （学びに向かう力、人間性等）

8 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点（指導の手立て・評価の観点）	備考
5分	1 あいさつをする。 ・前回は振り返る ・本時の説明を聞く	○「今日は2人のお客さんの予約が入っている」ことを伝える。	
10分	2 カフェの開店準備をする。	○テーブルを並べる係と装飾をする係に分かれる。児童の希望を聞き、役割分担をする。 ○注文を聞いてお客さんに届ける係と、配膳をする係りを決める。2人目のお客さんの時は交代することを伝える。 ……………カフェ開店……………	カフェのセッティングができたなら、最初の席（教室の後ろの椅子）に戻り、カフェの役割分担を行う。
20分	3 お客さんをもてなす。 ・あいさつ（「いらっしゃいませ」） ・席の案内 ・注文をとる ・カウンターで配膳 ・飲み物とクッキーをお客さんに出す ・あいさつ（「ありがとうございました」）	○係ごとに教員がついて、必要な支援を行う。（はっきり言葉を発すること、ゆっくり丁寧に行動することなど） ○来店と帰る際のあいさつの言葉は、声をそろえて大きな声で言うように促す。 ○1人目のお客さんが帰ったら、速やかに係の交代ができるよう、促す。 ……………カフェ閉店……………	閉店後、最初の席に戻る。
	4 片づけをする。		
	5 お客さんの話を聞く。	○お客さん（教頭、養護教諭）からの「感謝」の言葉やよかったところを話してもらい、聞く。	
	6 感想発表をする。	○がんばったことや感想を発表し合う。	
5分	7 カフェの片づけをする。	○準備のときと同じ分担で、協力し合って片づけることを伝える。	
5分	8 あいさつをする。		

9 準備物

- ・カフェ用品（看板、机、テーブルクロス、メニュー、コップ、皿、お盆、クッキー、飲み物）

10 授業評価

(1) 児童の学習評価

- ・接客のマナーを理解し、正しい言葉づかいができたか。（知識・技能）
- ・友だちと協力し、役割を理解してお客さんをもてなすことができたか。（思考・判断・表現）
- ・カフェの仕事を疑似体験することを通し、働くことの意味や苦勞、喜びを理解できたか。（主体的に学習に取り組む態度）

(2) 教師の指導評価

- 児童が主体的に学習に取り組めるよう、カフェとそこで働く先輩の姿をイメージできる言葉がけができたか。（主体的な学び）

- (3) 自由記述（授業について気づいたことがありましたら記入の上、T1に提出してください。）

中学部Aグループ 教科別の指導「音楽」学習指導略案

- 1 題材名 「トーンチャイムの合奏『一緒にならそうよ（小柳玲子作詞・作曲）』」
- 2 日時 令和〇〇年〇〇月〇〇日（〇曜日） 第〇校時 〇〇:〇〇～〇〇:〇〇
- 3 場所 音楽室

4 題材設定の理由

中学部では生徒の実態に関わらず、学部全体を2つのグループに分けて音楽の授業を行っている。Aグループは23名で構成されており、知的障害の他に自閉的傾向、ダウン症候群、肢体不自由、聴覚障害、精神障害を有するなど実態は多様である。音や音楽に対する受容の幅が狭く、十分な表現や友達を意識した活動につながらない様子が見られるが、音楽への関心は高く意欲的に活動している。

本題材は、楽器を介したやりとりを通して、生徒が音色や響きを味わいながら、友だちとタイミングを合わせて演奏する活動である。トーンチャイムは、音色に情緒の安定を図る作用をもつといわれている楽器である。また、残響が長く続くので、音色や振動を十分に感じ取りながら、音や音楽を受容して表現する力を高めることができる。「一緒にならそうよ」では、五音音階の音を用いているので、自由に音を鳴らしても不協和音にならず、美しい和音の響きを味わうことができる。曲は歌と楽器の交互のやりとりで進行していく。教員の歌いかけを聴いてから楽器を鳴らすので演奏のタイミングがわかりやすい。また、個々の表現が重なり音楽に変化が生じるので、音楽性の高い曲を作ることができる。

教員の歌を聴いたり動作を模倣したりすることを通して「はじめ」と「おわり」を感じ取り、楽器を介したやりとりを成立したい。歌と楽器演奏の「間」を十分に取り、響きが消えるまで丁寧に聴くことで、音を受け止める力を育て主体的な表現を引き出したい。合奏の響きを味わい、友だちと協同して音楽活動をする喜びを感じてほしいと考えこの題材を設定した。

5 指導計画（全3時間扱い）

- (1) トーンチャイムの音を聴いてから教員の動作を模倣しタイミングを合わせて鳴らそう。・・・1時間
- (2) トーンチャイムで「一緒にならそうよ」の合奏をしよう。・・・2時間(本時1/2時間)

6 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の視点

音や音楽への関心を高めるために、楽器と音の提示を丁寧に行う。楽器をケースから出すところからじっくり見せ、一音を十分に聴かせてから一人ずつに楽器を渡し、自由に鳴らす場を設定する。その際、教員は先回りをして支援をするのではなく、音を聴いたり、様々なリズムで楽器を鳴らしたりする等の生徒の表現を尊重し、最小限の言葉がけと支援を行うようにする。生徒の主体的な表現を引き出して楽器を介したやりとりを成立し、個々の表現の重なりによって生じる音楽の変化や響きの美しさを感じ取ることで、友だちと音楽を作る喜びを味わわせたい。

7 本時の目標

- ・教員の歌を聴いたり動作を見たりして、タイミングを合わせて演奏することができる。
(知識及び技能)
- ・楽器の音色や合奏の響きを味わいながら、自分なりの表出や、思いや意図をもった表現ができる。
(思考力、判断力、表現力等)

8 本時の展開

時間	学習活動	指導・支援の手立て及び指導上の留意点	備考
5分	1 あいさつをする。 ・ピアノの和音に合わせてあいさつをする。	・IVIの和音で立って礼、あいさつをする。	ピアノ

	2 はじまりの歌を歌う。 ・「歌おう」を歌う。	・教員は表情よく歌いかける。楽しい雰囲気を感じ取らせることで学習への期待感を膨らませる。	ピアノ 歌詞カード
15分	3 「あの青い空のように」を歌う。 ・2つのグループを作り、歌の掛け合いをする。	・T 2～4はリーダーの生徒と一緒に前に出て歌う。友だちと教員の声を聴き表情を見ることで伸び伸びと歌えるようにする。 ○友だちと声を合わせて歌う楽しさを感じ取れたか。 【学びに向かう力、人間性等】	ピアノ 歌詞カード
25分	4 「トーンチャイムの合奏」をする。 ・楽器の音を聴く。 ・楽器を渡された生徒から自由に音を鳴らす。 ・教員の動作に合わせて一緒に音を鳴らす。 ・「一緒にならそうよ」の歌を聴きながら合奏をする。 ・楽器を片付ける。 ・感想を発表する。	・楽器をケースから出すところから見せ、一音を残響が消えるまで聴かせる。言葉かけは最小限にし、視覚と聴覚に集中できるようにする。 ・楽器の音を鳴らしてから、生徒に1本ずつ渡す。生徒に応じた楽器の重さや音高に配慮する。 ・T 2～は楽器が安全に扱えるようにする。教員が鳴らした音を聴いたり、振動を感じたりするだけでもよい。音の刺激が強すぎないか観察し、楽器と生徒との距離に配慮する。 ・残響が消えるまで静かに音を聴かせる。T 2～はT 1の動作に注目するように言葉をかける。楽器の交代時は友だちとやり取りができるようにする。 ・T 1の歌いかけと動作模倣を通して、演奏の「はじめ」と「おわり」が意識できるようにする。 ・T 2～は個々の実態による表現（自由なリズムで鳴らす、音を聴く等）を尊重する。楽器の交代時は友だちとやり取りができるようにする。 ・丁寧にカゴの中に入れるように言葉をかける。 ・合奏の音色や響き、自分や友だちの演奏について振り返るようにする。 ○教員の歌や動作にタイミングを合わせて演奏していたか。 【知識及び技能】 ○音色や響きを味わいながら、自分なりの表出や、思いや意図をもった表現をしていたか。 【思考力、判断力、表現力等】	トーンチャイム (ラドミソの音、計14本) ピアノ カゴ
5分	4 おわりの歌を歌う。 ・「グッデイ・グッバイ」を歌う。 5 あいさつをする。 ・ピアノの和音に合わせてあいさつをする。	・教員は表情よく歌いかける。体を動かしながら友だちと声を合わせて歌うことで、一緒に活動する喜びを感じ取れるようにする。 ・I V Iの和音で礼、あいさつをする。	ピアノ 歌詞カード ピアノ

9 準備物 トーンチャイム (ラドミソの音、計14本)、ピアノ、歌詞カード、カゴ

10 本時の評価

(1) 生徒の学習評価

- ・教員の歌や動作にタイミングを合わせて演奏することができたか。 (知識・技能)
- ・楽器の響きを聴いて自分なりの表出をしたり、思いや意図をもって演奏したりすることができたか。 (思考・判断・表現)

(2) 教師の指導評価

- ・ 楽器や音の提示を丁寧に行い、音や音楽を受け止める環境を形成することができたか。
(主体的な学び)
- ・ 楽器を介してやりとりをする場面を設定し、主体的な表現を導くことができたか。
(主体的な学び)

(3) 自由記述 (授業について気づいたことがありましたら記入の上、別紙又は切り取って T1 に提出してください。)

- 1 題材名 「モザイクタイルの鏡」
- 2 日時 令和〇〇年〇月〇日(〇曜日) 第5校時 13:10～14:00
- 3 場所 高等部2年〇組教室
- 4 題材設定の理由

高等部2年〇組は男子5名、女子2名の計7名で構成される。当該学級は美術を好む生徒が多く、筆や粘土等使用する道具や素材にも一定の経験があるため、総じて創作活動に積極的に取り組める。一方で、イメージ通り表出にできなかつたり、成功体験が少なかつたりすることから表現活動に関しては苦手意識をもつ生徒もおお、課題となっている。

色彩豊かで光沢感、高級感のある素材(タイル)や初めて使う道具(タイルニッパー)などを使用する本題材は、素材や道具自体が関心を引き、また具象的な表現に限らず幾何学模様など様々なデザインを追求できることから、当該学級全員が意欲的に表現活動に取り組めると考える。例えば、薄いタイルをあらかじめ自由に割り、偶然現れた形や色の組み合わせを生かして、抽象的なデザインに仕上げていくこともできる。また、ブロック状のタイルは市松模様やグラデーションなど幾何学的な模様を作ることに向いている。こうした素材や制作手段の選択により、どの生徒も自分なりの表現を追求できる。学習指導要領の内容に示されたA表現ア(ア)

「対象を見つめ感じ取ったことを基に主題を生み出し、構成を創意工夫し、心豊かに表現する構想を練ること」、A表現ア(イ)「材料や用具の特性の生かし方などを身に付け、意図に応じて表現方法を工夫して表すこと」にあたる内容であり、これを通して「美術の創作活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う」という目標の一端を達成できると考える。

生徒一人一人の構想や選んだ手法を肯定し、必要に応じた助言などの支援により本人の求める表現を実現できるようにすることで、生徒が達成感や自己肯定感を得られるよう配慮する。また、本題材は「鏡」の制作であり、完成後日常生活で使用できる。生活空間を自ら手作りした作品で彩る楽しさや豊かさを体験してほしい。それが今後の表現活動への更なる意欲の喚起につながることを期待する。

5 指導計画(全10時間扱い)

- (1) モザイクタイルとは何か、どのように制作するか(オリエンテーション)・・・1時間
- (2) デザイン画制作並びに使用するタイルの選択(色、形状)・・・1時間
- (3) 木板へのデザイン画の転写、鏡の添付・・・1時間
- (4) 制作工程①タイルの加工と添付・・・5時間(本時4/10時間)
- (5) 制作工程②石膏の流し込み・・・1時間
- (6) 飾りつけと鑑賞・・・1時間

6 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の視点

上記題材設定の理由(題材感)で示した、創造性や表現及び鑑賞する能力を高め、造形活動を通し豊かな情操を養うためには、根底に美術に関する苦手感からの脱却、自己肯定感が必要であると考えられる。自分の発想や選択を躊躇なく表出、発信していくこと、且つ共感をもって周囲に受け止められること、評価されることで、自己有能感、自信が醸成される。さらに、その自信が、新たな発想や挑戦する意欲を呼び起こす基盤となり、表現の幅をさらに広げることや豊かさを味わうことにつながっていく。この、自信や意欲、能力が相関しながら高まっていくスパイラルを、造形活動を通して体験してほしい。本題材では、当該学級全員が創作活動には抵抗感なく取り組める実態であることを踏まえ、以下2点を授業改善の視点とする。①本人たちの自由な発想を評価し、表現の手法において必要に応じ技術面を支援することで、生徒一人一人が主体性をもって制作できるようにする。技術面の指導においては、生徒本人の求めに応じ、適宜適切な技法の手本を示すなどして伝えることで、表現力を高めていく。また、②授業毎のまとめの相互評価を通し、他者の感じ方や発想を知り、互いの良さを認め合うことで、多角的な視点の会得や自身の構想の練り直しなど、より深い学びにつなげていく。

7 本時の目標

- ・タイルニッパーを使用して安全且つ的確にタイルを割る方法について理解する。
(知識及び技能)
- ・自分で描いたデザインをタイルでどのように表現するか考える。または、偶然できた形状や色の組み合わせなど素材（タイル）から面白さや美しさを感じ、発想を得て表現する。
(思考力、判断力、表現力等)

8 本時の展開

※本時の目標に特に関係する部分（☆知識及び技能、★思考力、判断力、表現力等、◆学びに向かう力、人間性等）

時	学 習 活 動	指 導 ・ 支 援 の 手 立 て 及 び 指 導 上 の 留 意 点	備 考
1 分	1 あいさつをする。	・教員が姿勢を整え、はっきりとした発声で生徒の模範となる。	
9 分	2 学習内容を知る。 ◆デザイン画を相互に鑑賞し、互いの発想の違いや良さを感じ、制作への期待感をもつ。 ・制作工程を確認する。 ☆制作上、道具使用上の留意点、安全を確認する。	◆前回作成したデザイン画を掲示し生徒が鑑賞できるようにする。各生徒の発想やオリジナリティを評価し、制作への期待感を高める。 ・実物やPCを使用して制作工程を示す。 ☆タイルニッパーの使い方を模範で示し説明する。生徒が体験し、感想を発表する。 ☆タイルニッパーに手を挟む、タイルの破片で指先を切るなどの恐れがあるので、注意するよう伝える。	
30 分	3 制作する ・道具を準備する。 ・数が限られる道具は譲り合って使用する。 ☆タイルニッパーの使い方を理解する。 ・接着剤の適量について理解する。 ★自分の表現したいデザインに合わせ、素材と作り方を選択して創作する。	・使用する道具等を実物、画像、文字を用いて示し、自力で揃えられるようにする。 ・タイルニッパーを互いに譲り合って使うよう言葉がけする。 ☆目の前で手本を示す、手を添えて一緒に割るなどの支援を行う。制作の中で、タイルニッパーの使い方を習得したか、上達しているかなどを評価する。 ★自分でイメージできたか、イメージに沿った素材や手段を選択できたか評価する。各自の意向に応じたアドバイスをを行う。 【具象的な表現】生徒の表現に応じた破片を切り出せるよう、タイルの割り方を具体的に指導する。 【幾何学的な表現】形が整うと模様が際立つことを伝え、升目を描くなどタイルを埋める工夫を促す。 【偶然性を生かした表現】生徒が見つけた形や色の組み合わせを評価し、敷き詰める表現や空間を目地で埋める表現などの例を示す。	
5 分	4 片付けをする。 ・素材と道具を片付ける。 ・作品を提出する。	・タイルを種類や色で分けて収納するよう手本と指示書を示して伝える。 ・作品を長机に並べて提出するよう指示し、生徒が作品を見る機会を作る。	
5 分	5 学習を振り返る。 ◆互いの作品を見て、今後の制作工程や完成への期待感をもつ。	◆自分と友だちの作品に対する生徒の感想を引き出し、教員もそれぞれの作品の良さを述べることで、生徒が互いに認め合い、今後の制作工程や完成への期待感、意欲をもてるようにする。また、そうした創作意欲そのものを評価する。	
	6 あいさつをする。 ・気持ちを整える。	・区切りをはっきりとつけ、達成感を感じられるようにする。	

9 準備物 (略)

10 本時の評価

(1) 生徒の学習評価

- ・ タイルニッパーで安全且つ的確にタイルを割る方法が理解できたか。 (知識・技能)
- ・ 自分で描いたデザインをタイルで表現することができたか。または、偶然できた形状や色の組み合わせなど素材から面白さや美しさを感じ、発想を得て表現できたか。 (思考・判断・表現)
- ・ 生活を彩るものを自分で作り出す楽しさを味わえたか。 (主体的に学習に取り組む態度)

(2) 教師の指導評価(学習環境や教材教具等についての評価も含む)

- ① 本人たちの自由な発想を評価し、表現の手法において必要に応じ技術面を支援することで、生徒一人一人が主体性をもって制作できるよう支援できたか。 (主体的な学び)
- ② 授業終盤の相互評価を通し、生徒一人一人が他者の感じ方や発想を知り、互いの良さを認め合うことで、多角的な視点の会得や自身の構想の練り直しなど、より深い学びを得られるよう支援できたか。 (深い学び)

(3) 自由記述 (授業について気付いたことがありましたら記入の上、別紙又は切り取って T1 に提出してください。)

記入例：ねらいに対して他にどのような活動が考えられるか、地域資源や教材のアイデア等。

- 1 題材名 「発表に向けて技を磨こう」
- 2 日時 令和〇〇年〇月 〇〇日（〇曜日） 第〇校時 〇〇：〇〇～〇〇：〇〇
- 3 場所 体育館
- 4 題材設定の理由

本グループは、身体を動かすことに興味があったり、得意だったりする生徒で構成した課題別学習グループである。ほとんどの生徒が高等部入学前にマット運動や跳び箱運動を経験している。身体を動かすことには意欲的であるが、柔軟性やスムーズに身体を動かすことに課題がある生徒が多い。

本題材では、マット運動、跳び箱運動、平均台運動の3種目を設定した。課題によって技の難易度を変えられ、幅広い生徒の実態でも課題に合わせてスモールステップを設定し上達を感じやすい種目である。学習指導要領の内容にはB(2)「生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること」とある。まず全種目を経験し、技の完成度を高めたい種目を選択し、練習を積み重ね、最後の授業で成果を発表する。種目別練習からはパートナーを組み、ワークシートを用いてその日の目標を確認し、お互いにチェックし合い授業の最後に成果を確認する。自身の体力の向上はもちろんのこと、仲間と共に練習を積み重ねる過程を通して、他者の努力する姿勢やその結果から得られた技の美しさに気付き、自他に対する肯定的な態度を養う一助としたい。また、使用する大型の用具の運搬は他者と協力することが必要になる。用具の準備・片付けも生徒同士で配置図を見ながら行い、他者と協力し安全に留意して取り組む態度を育てていきたい。

5 指導計画（全7時間扱い）

- (1) 体験して自分の種目を決めよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2時間
- (2) 技を磨こう(初回に班長の決定、ワークシートの使い方を指導)・・・ 4時間（本時4／4）
- (3) みんなの前で成果を発表しよう！・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間

6 主体的・対話的で深い学びの実現にむけた授業改善の視点

- ・自己評価や他者評価を行う場面を設定し、自身で振り返って次の目標をもつことができるようにする。
- ・教師からの指示が最小限で進行できるよう生徒が自ら行動に移せるようにする。

7 本時の目標

- ・自分で選択した種目の技を前回よりも向上させることができる。 (知識及び技能)
- ・仲間の良いところを見つけ伝えることができる。 (思考力、判断力、表現力等)
- ・安全に留意して仲間と協力しながら、自主的に活動することができる。 (学びに向かう力、人間性等)

8 本時の展開

時間	学習活動	指導・支援の手立て及び指導上の留意点	備考
2分	※配置図を見て用具の準備 1 体育館の肋木前に集合し、挨拶をする。 2 本時の説明を聞く。	※T1は全体、T2は器具庫付近で見守る。 1 集合位置の基準を示しておく。 2 発表会前の最後の練習のため、発表を意識して取り組むことを伝える。	配置図掲示 T2～T4は健康観察

8分	3 準備運動をする。 (1) 3分間走 (2) ストレッチ ・体育係が前に出て進行を行う。 (3) 補強運動	3 (1) T1～T4 はコースの各角に立ち、生徒同士がぶつからないようにする。 (2) 特に首は入念に行うよう言葉かけを行う。 (3) しっかり補強運動に取り組んでいるか、係のかけ声に合わせて声を出しているか巡視する。	BGM 操作 (T2) 【種目担当者】 マット (T1, T2) 跳び箱 (T3) 平均台 (T4)
25分	4 自分の種目場所へ移動し、パートナーと本時の頑張ることを伝え合い練習を行なう。	4 各種目で練習開始前に次の留意点を確認する。 ・パートナーと目標を確認し、お互いを見る時の観点をもつこと。 ・前者と後者がぶつからない様、お互い合図をしてから後者がスタートすること。	
10分	5 集合・振り返り・まとめをする。 ・パートナーとシートを用いて振り返りを行なう。 ・各班代表1名が演技、1名が演技者の本時の練習で向上した点を発表する。 6 整理運動をする。 ・体育係は前で進行する。 7 挨拶・片付けをする。	5 生徒の振り返りを巡視し必要に応じて言葉かけをする。 ・生徒の発表後、本時のまとめを簡単に行う。 ・各班長で集まり発表会の種目の順番、班内の発表者順を決め、○日までに記入用紙を持って報告に来るよう伝える。 6 ストレッチをしてみて痛いところはないか確認する。 7 T1 は器具庫付近、T2～T4 は担当種目の片付けを見守る。	T2～T4 はワークシートの回収及び健康観察

9 準備物

用具配置図、BGM、コーン×4、マット運動（長マット×2）、跳び箱運動（跳び箱×2、ロイター板×2、短マット×2）、平均台運動（平均台×2、短マット×4、ボール×2、水入りペットボトル×6）

10 本時の評価

(1) 生徒の学習評価

- ・自分で立てた目標を達成できたか。 (知識・技能)
- ・パートナーが立てた目標を理解した上で相手を評価できたか。 (思考・判断・表現)
- ・仲間と声をかけ合い安全に留意して運動や片づけができたか。

(主体的に学習に取り組む態度)

(2) 教師の指導評価（学習環境や教材教具等についての評価も含む）

- ・生徒の思考を深めるために意見交換を促したり、気付いていない視点を提示したりできたか。 (深い学び)
- ・生徒に見通しをもたせ教員からの指示がなくても班長を中心に行動するよう的確な指示が出せたか。 (主体的な学び)

(3) 自由記述（授業について気付いたことがありましたら記入の上、T1 に提出してください。）